淀川水系流域委員会 第23回猪名川部会

議事録 (確定版)

日 時：平成16年11月2日(火) 16:00～19:00

場 所：天満研修センター 9階イベントホール

〔午後 4時00分 開会〕

庶務（みずほ情報総研 鈴木）

皆様、お待たせいたしました。定刻となりましたので、これより淀川水系流域委員会第23回猪名川部会を開会させていただきます。

司会進行はみずほ情報総研の鈴木が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、審議に入る前に幾つかのご報告、ご確認をお願いさせていただきます。まず、配付資料の確認でございます。封筒に袋詰めになっている資料でございます。色紙の「発言にあたってのお願い」に続きまして、「議事次第」、それから「配付資料リスト」がございます。その下に資料が5点封入されているかと思えます。まず、資料1でございますが、「事業進捗に関する委員からの意見」でございます。資料2が「猪名川狭窄部上流の目標洪水について」でございます。資料3が委員会における今後のスケジュールでございます。それから、参考資料1「委員および一般からのご意見」でございます。それから、最後に参考資料2「平成16年台風23号による災害について（速報）」でございます。資料に不足等がございましたら庶務までお申しつけください。

それから、いつものように、発言に当たってのお願いでございます。本日は一般傍聴の方にもご発言の時間を設けさせていただき予定でございます。その際には、黄色の「発言にあたってのお願い」をご一読ください。また、委員の方々の審議中は一般傍聴者の方の発言はご遠慮いただきます。ご協力をお願いいたします。

それから、会議終了後、議事録を作成しますので、委員の方々及び河川管理者の方々におかれましても、ご発言の際は必ずマイクを通してお名前をいただいた上でご発言をいただきますようお願いいたします。

また、携帯電話をお持ちの場合は、審議の妨げとなりますので電源をお切りいただくか、マナーモードに設定をお願いいたします。

本日は19時に終了させていただきたいと思えます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは早速審議に移りたいと思えます。池淵部会長代理、よろしくお願いいたします。

〔審議〕

池淵部会長代理

それでは、第23回の猪名川部会を始めさせていただきたいと思えます。本日は審議ということで、大きくは2つの案件を考えてございます。1つは事業進捗の点検についてということで、それぞれ事業の実施、検討、調査といった形で幾つか報告、立ち上げの内容がございます。そういったものに対して部会としての意見等を出すという、点検という意味合いでご審議いただくこととでございます。これにつき

ましては、きょうも朝からやっておったんですが、検討会という形のを設けさせていただきまして、それぞれの役割等を担っていただく形で作文等もさせていただいております。きょうは、そういったまだ個人ベースの意見になろうかと思えますけれども、そういったもののやりとりの中から猪名川部会としての意見の反映、提出、そういったものにまとめていければというふうに考えております。

それからもう1点は、先般からもございましたが、猪名川狭窄部の対象洪水の見直し等がございましたが、そういったものの内容の説明を河川管理者さんの方からいただく形で、それについての審議等をやらせていただくということを大きく考えてございます。前半の事業進捗の点検につきましては、検討会等を通じてここまで持ってきていただいたことも含めて、本多委員に議事進行も含めてお願いをしたいと思えます。それじゃ、よろしく願いいたします。

1) 事業進捗の点検について

本多委員

本多です。資料1というのが皆さんの手元に行っているかと思えます。これにつきましては、10月25日の7回の検討会、それから10月28日の8回目の検討会、本日11月2日に9回目の検討会を行いまして、その結果をこの資料1にまとめてございます。これはあくまでも分担をいたしまして、委員が個人的な見解としてまとめたものでありますので、これはまだ部会の見解というものではありません。皆さんのご意見をいただいて修正をさせていただくということでご了承をお願いしたいと思います。

もちろん違う意見もあるというふうに思えます。これにつきましては、きょう、全部議論をしていたきたいんですが、十分議論できないと思えますので、さらにこの後、第10回の検討会を持つことにしておりますので、その中でも詰めさせていただいて、それでも詰まらないようでしたら、引き続き11回、12回という検討会が必要なかもしれませんが、最終的には12月の猪名川部会に諮らせていただいて、12月の本委員会の方に出させていただくというような形になろうかと思えます。

それで、とりあえず進捗状況の点検作業につきましては、全項目について、一応皆さんからのご意見をいただきましたので、これは初めてきょう11月2日の午前中にまとめたものですので、まだごらんになってない委員の皆さん、それから河川管理者の皆さん、初めてこれはまとまった形でコピーしていただきましたので、内容が十分掌握できていないと思えます。読んでみますと、かなり膨大な資料ですので、これもまた時間的に無理かと思えますので、とりあえず環境、治水、利水、余野川ダム、ダムにかかわる部分についてはダムワーキングが検討しておりますので、それを除きましたいわゆる上流部の代替案の検討ということについて、それぞれ分担した個々の委員の皆さんのご意見をいただきましたので、順番に進めて、皆さんからの意見をちょうだいしたいというふうに思えます。最後に利用と維持と計画というのをまとめて、5つの分野でそれぞれ二、三十分ずつの割合で進めていきたいなど。前半はその

ように進めていきたいというふうに考えます。

それで、早速なのですが、開いていただきますと、まず最初に環境の方から入っていききたいと思います。環境につきましては、池淵委員、服部委員、畚野委員、矢野委員、田中委員も意見をまとめてきていただいていると思いますので、簡単に1人2分か3分程度で、自分が担当してくださったところの特に重要なところとか言いたいところというのを報告いただきたいというふうに思っております。その後、環境の部分について皆さんのご意見を賜りたいなど。不足している部分については検討会でさらに詰めたなというふうに思いますので。

そうしましたら、まず最初に畚野委員の方からお願いできますでしょうか。

畚野委員

委員の畚野です。まず、環境に関する項目の、私として現在意見を書かせていただいたものについて、簡単に、特に注意していただきたいと思うことを説明いたします。

資料1の1ページの真ん中より下ですが、環境-24・26というところがございまして、ここに付きまして。これは、河川形状、特に縦断方向の修復ということで、要するにそれぞれの川の部位において、段差というか堰のようなものが幾つかございまして、それが魚の上ったりおりたりに影響するというところについての検討事項であります。個別的に検討していただいて、猪名川自然環境委員会というのが別にございまして、そこの指導、ご助言をいただいて、随時実施するということが記載されておりますけれども、対象とする魚類とか、その生態というものの調査を十分検討して、効果的な、例えば下流の方から着手した方が合理的であれば下流の方から順次着手するとか、そういう着手順位についても考えていただいたら結構かと思えます。

もう1つは魚類の上ると下るのが同じ構造で兼用できるのか、あるいは上ることについては過去の技術的蓄積があるけど、おりていくということに対しての構造物というのが果たして現状、どういうふうにするのかということも十分考えていただいたらいいというふうに思えます。

もう1つ担当いたしましたのは、2ページの一番上でございまして、環境-47というページでありまして、これは土砂の移動障害を軽減するための方策というひとくりであります。その中で整備シートの中に具体的な内容という項目がありまして、それについて総合的な土砂管理ということが当然うたわれておりますけれども、さらに追加というか、並列して土砂流出防止機能を有する森林の保全整備の検討について、これは関係機関との連携を図るというふうなうたわれております。そういうふうなことは今まで突っ込んで検討されてない分野かと思えますけれども、今後、森林の活用ということは重要な検討課題だと考えますので、ぜひ、そういう連携機能を発揮して森林効果の実現に全体として努力していただきたいということが希望でございます。

環境に関して私の意見としては以上であります。

本多委員

ありがとうございます。引き続きまして、服部委員の方から分担のところをお願いいたします。

服部委員

服部です。私が担当していましたところは2ページ目の環境 - 59・60・61、生息・生育環境の保全と再生の検討ということで高田地区、東園田地区、北河原地区の整備をどう考えるかというところでした。その地区の選定に当たっては、自然性の非常に低い猪名川の中においては相対的に高いところなので、ここを保全再生の場所とすることは非常にいいことじゃないかということと、ただし、最近ヒメボタルが猪名川の中で発見されたりしていますし、外来種がまた侵入して違う状況もあることから、少し場所の見直しも必要かもわからないということをもとめました。

それからもう1点まとめたのは、3ページ目の環境 - 64、外来種対策なのですが、猪名川は帰化率日本一ということがかねてから有名なところなのですが、そういうような余り自慢できない日本一なので、この外来種対策は猪名川においては特に重要ではないかということで、現在実際に市民参加のもとでアレチウリの除去作業等を進めていただいています。ですから、このことに関しては非常にいいのではないかということなのですが、ただし、外来樹木についての対策がまだ十分とれてないので、今、調査中だと思うのですが、トウネズミモチなんかは今から果実ができていますので、またこれから散布がどんどん始まるということで、できるだけ速やかに除去が必要じゃないかというふうにまとめた。

以上です。

本多委員

ありがとうございます。引き続きまして、次は矢野委員、お願いできますか。

矢野委員

矢野でございます。私の方は2ページ目の環境 - 58・59、3ページ目の環境 - 61というところをまとめさせていただきました。

まず、1つは環境 - 58のところでは土砂の流出というか蓄積によりまして、河川への堆積による問題でございますけれども、これは当然藻類等の一次生産者に大きな影響を与えます。これは生態系を傷めるということで、何とかしなきゃいけないということです。

ただ、河川の土砂の流出は河川だけでなく、例えば圃場整備の工事であるとか、建設残土とか、いろいろな問題があるかと思えます。そういう問題も含めまして、河川管理者、流域の各自治体、検討中の河川レンジャーや、地域のNPO等々が協働して適切に監視をし、対策を講じていく必要があるんじ

やないかということでございます。

それから、河川環境につきまして、特に猪名川の場合、森下先生のもとで自然環境委員会が既に設立されており、今後さらに論議されてくると思いますが、河川での人工の構造物につきましては、できる限り自然になじませるものを造って行く必要がある。例えば、人工的に淵や瀬、ワンドみたいなものを構築する場合にも、河床の影響を考慮してあくまで自然に手を貸して、自動的に自然が回復するといった調和のとれたものにする必要があるのではないかということを書いております。

それと、外来種の問題がございまして、それで固有種がシャットアウトされているような状態がございまして、これにつきまして現在では、広域的な課題もあり、なかなか難しいとは思いますが、今後とも啓蒙し続けていくことが必要じゃないかということでございます。

また、外来種の捕獲撤去等々のことも考えられるんですけども、なかなかそれが有意義に機能していない部分もございまして。いずれにいたしましても在来種の保護には河川での監視が非常に重要ではないかということで、特に地元のNPOとの連携を密にして監視を続けていくことが必要になっていくんじゃないかと思っております。

それから、もちろん在来種の増殖には手助けをしなければならないと思いますが、外来種の撲滅に向けても、やはりそういうきめの細かい詳細な調査を行っていく必要があるんじゃないかということでございます。

それから、環境-61でございますけれども、これも1つは河川構造物は自然にマッチしたものにすべきであるということと、河道内での樹木なんかが繁茂しているような状況が見られております。これはもちろん治水的にも問題がございまして、やはり伐採とかそういう方向で対応していく必要があるんじゃないかということでございます。ただ、伐採などの実施に関しては、例えば河道内の景観とか、どういう河川にしていくかということをよく地域の住民の方と協議しながら進めていく必要があるんじゃないかと思っております。特に、先ほど申し上げましたような自然環境委員会の方でもそのテーマに入っているとしますので、十分協議されることが望まれるということでございます。

以上でございます。

本多委員

ありがとうございます。田中委員の方から、引き続き。環境-24・26ですね。

田中哲夫委員

委員の田中です。ちょっと入院しておりましたので、3カ月ほど流域委員会をごぶさたして浦島太郎状態でございますが。

環境の方の河川の縦断方向の連続性の回復と、横断方向の連続性の回復ということで、縦断方向の連

続性の回復ということでは、海と本流、中流、支流の連続性を、ともかく魚類を初めとしたさまざまな水生動物の溯上降下を保証するような構造にしてくれということに通っているのですが、もう1つの横断方向の河川形状の修復というところでは、どっちかというとそういう川からというよりも、1つの川の中の断面の水と、水陸移行帯と、陸上という連続性に限られているような書き方がしてあるのですけれども、こんなことは本当は僕が注文のところに書かないといかんですけれども、ごぶさたしております、今こういうコメントをつけることをお許しいただきたいのですけれども、横断方向というのはそういう意味で海、川、陸上という感覚で言えば、国土交通省の管轄の一級河川、それから県管轄の河川、それから農水管轄の水路、それから田んぼというのをつなげてくれというのが横方向の連続性の回復ということだと私は思っております。

その中で、それぞれのところで水域、それから水陸移行帯、それから陸上というところの植生というか、生息場所の移行帯というものを確保してくれというのは申し上げたいと思います。

本多委員

ありがとうございます。かなりもっとワイドにということですね。はい。最後に池淵委員の方からお願いします。

池淵部会長代理

私は1ページ目の一番下にあります、「土砂移動の障害を軽減するための方策の検討」という中で、土砂投入とダムからの放流というか、そういう形の資料、報告等をいただきましたので、その部分を少し意見として書かせていただきました。

ダムにたまっている堆砂を一部持ち出して、それをダムの下流に投入して、ダム放流等でそれを輸送、移動させるというふうな形で下流河川の土砂動態といったものについて幾らかとも貢献するような方策というふうに受け取りますと、そういった意味では評価ができるだろうと。ただ、まだあくまで試行実験の域を出ないので、引き続きいろんなモニタリング調査等やっていく形で、効果を見るまでには少しそういうふうな形のものをやっていかないとというような視点でコメントをさせていただいております。以上です。

本多委員

ありがとうございます。それぞれ役割としては、複数の方々をお願いいたしましたので、互いにない部分を補ってくださったり、若干ニュアンスの違うような表現をしてくださったりしているかと思しますので、とりあえずざっと環境-15から67までのところが皆さんからご報告をいただいたような形になっております。

それぞれ、皆さんのおっしゃったことなり、なかなか聞いただけではわかりにくいのですが、さ

らに横断方向や縦断方向の問題とか、土砂移動とかそういうことについてプラスしてほしいとか、そういうふうな意見がございましたら、引き続き委員の皆さんからご意見を承りたいと思いますが、いかがでしょうか。じゃ、森下先生。

森下委員

環境について、それぞれにはある程度のことが形はできてきていると思うのです。ただ、それが複合した結果、何が起きる、例えば外来種の駆除をすることによって、それは生物多様性の問題でとても大事なことなんだけど、そのことによってほかの生物にどういうふうに影響が与えられるかというようなことや、多分、魚道をつけたり、そのことによってまた外来種をふやすようなことにもなりかねないというようなこともありますので、一つ一つのものを検討していくのではなくて、そのときそのときの状況に合わせて全体としてどうなるかというのを常に考えていかないといけないということと、もう1つは全体としてどうなるかというのは、時間的にどうなるかということも含めて、流域全体にどういうふうに大きく影響を与えていくかというのを必ず考えていかないといけないのではないかというふうに思います。

例えば、外来種の駆除ということで高水敷を下げるようなことが、例えば魚類の生産にどういう影響が与えられてくるかとか、そのことと水質の汚濁というようなところでシビアにどういう影響が出てくるかとか、いろんなことが考えられます。今までの環境の問題というのは1つの項目に対して、1つの答えを見つけてきたようなところがあって、全体として論じられなかったことが猪名川は大変不幸だというふうに思うんです。公園の問題も含めて全体としてそうですけれども、なぜ河道の中に公園があったらいけないのかとか、公園を運営していくにはどうしたらいいかというのは、外来種の問題だとか、生物の生産の問題だとか、河川の浄化の問題だとか、全部にかかわってくる問題ですから、そういうような視点を環境のどこに入れていくかということがこれから問われるのではないかなというふうに考えております。

本多委員

はい、ありがとうございます。全体のことも考えていくということだろうと思いますが、それにつきまして環境委員会の方には池淵先生、服部先生もご参加いただいていると思いますし、またこの流域委員会の環境部会には田中先生、田中先生も環境委員会におられるんですね。それと、細川委員も環境・利用部会等に。矢野委員もそうですかね。いらっしゃったと思います。今のご意見も踏まえてご意見をいただきたいと思うんです。服部先生いかがですか。

服部委員

森下先生のお考えとちょっと違うんですけど、外来種の問題については日本に入ってきている外来種

というのはたくさんの種が入ってきて、その中で優占帰化しているのは非常に強い種。だから、外国の植物が強いんじゃないくて、たまたま強い種が日本に入ってきて繁茂している。とにかく外来種が繁茂しているという状況自体非常に問題なので、それを細かく考える前に、考えているうちにあっと言う間にはびこったというのが今までたくさんありますのでね。外来種問題に関しては速やかに対応をとるのが、前の環境部会でもそうだったと思うのですが。

森下委員

誤解がないようにしますね。私は、今の外来種の問題というのは、そういうふうにとらえているのではなくて、今、事務所とボランティアで草を刈っている、それでいいのかなと思うのです。もう少し基盤的に外来種が入れないような環境というのをつくり出していかないといけないのではないかな。生えてきたものを駆除するというような形で、進んでおりますがそうではなくて、外来種が入れないような基盤そのものをどういうふうにつくっていくかというようなことも大事ではないかなというふうに申し上げたんですが。

本多委員

ありがとうございます。ご意見はございますか。よろしいですか。矢野委員はどうですか。同じところを書いてくださいましたが。

矢野委員

確におっしゃるように外来種というのは強いものが非常に多いということですがけれども、ただ一番問題なのは、確かに今の時代、物流が世界的に広く動くような時代ですから、ある外来種を押さえたところで次に何かが入ってくるだろうという恐れがあります。自然環境というのはそれぞれで独自につくられていくものだということもあると思いますので、その中で在来種をどういうふうに育成していくかということは、やはり根本的な考え方を持たないといけないのではないかなと感じております。地球規模のことを考えれば、自然環境は当然いろいろな大きな動態で動くことは十分ございますので、古来にあったものがずっと続くのが一つの自然とも限りませんので、難しい問題はあると思います。

森下委員

言葉の問題だと思うのです。外来種を切るとか、そういうようなことは確かに大事なんだけど、それは多分日本語でいえば駆除するということだろうと思うのです。私は外来種を取り上げてしまったときは、それが自然に再生できないように根っこから変えなければと思っています。河川敷そのものを根本的に変えることによって、外来種の問題を解決すると同時に土砂の流動を起し、そして水質の浄化も含めて、池とかワンドの多様性とか、環境の多様性とか、そういうことまでを考えた上で外来種の周辺ととり組んではどうかと思っているのです。1つのことだけで済ませないで、幾つもの複合された要素

を解決していくために、たまたま外来種がたくさん生えているところの地点を選んだというようなことの方がいいのではないかなというふうに考えます。たとえばブラックバスのような魚を対象にした駆除と植物のくさかりとは違うのではないかと考えています。

本多委員

ありがとうございます。服部先生。

服部委員

昨年、新生物多様性国家戦略が出されたり、そういうようなところで生態系の保全、多様性の保全という問題が出てきた。その中で、多様性の保全をするためには外来種対策というのが必然であって、例えば原生林の中でさえ、外来種が入っていくような状況があるわけですね。ですから、それは河川というように攪乱された中では、当然いろいろな生物が入ってくる。それで、そのすべてを阻止することは絶対に不可能なんです。せめて優占帰化しているようなもの、日本の生態系に多大な影響を与えるものに対しては、速やかな対策をとる。アレチウリだとかニセアカシアとか、そういうものをとる。すべての外来種に対して、対策をとることではありません。本当はそれが望ましいのでしょうけど、現実的にはそれは不可能ですので、問題となっている優占帰化をするような、現在の生態系に多大な影響を与えるようなものに対して徹底的な手をとるということです。これだけは僕は絶対に引けない。ここを引いてしまったら外来種対策をとらなくてもいいんじゃないか、日本の生態系はそれぞれ時代とともに変わっていくんだから、それで当たり前じゃないかということになってしまうので、矢野先生のお考えとは僕は全く違います。

本多委員

ありがとうございます。ほかに環境部会にも所属されておりました細川さん、畑さんもそうですね。それから田中さんもそうだと思うんですが、こういうことも議論されてきたと思いますので、ご意見をいただけたらと思うのですが。細川さん、はい。

細川委員

細川です。ぜひ森下先生にお教えいただきたいのですが、先生がおっしゃるように外来種対策というのを駆除という形で行うのはやはり対症療法に過ぎないですから、抜本的に環境を改善していくということをぜひ検討していただきたいと思うんですが、自然環境委員会の委員長として、先生はどのような対策をすればその環境の改善が進むというふうにお考えなんでしょうか。

本多委員

よろしいですか。はい、じゃ、お願いします。

森下委員

すごく難しいお話ですが、委員長というのは自分の考え方をどうするというではありませんので、委員会で集まった意見をまとめるというのが委員長の役割だと思いますから、それは横に置いておいて。

今ここでお話をしているのは、今までの環境を見る目というのが1つのもの一つずつ対策を立ててきましたけども、そういうことではなくて、複合された結果を期待できるような方向に行きませんかということなのです。多分、もうひとひねりして対策を立てていくと本来ならば余りうまくいかなかったことがうまくいくようなこともありますから、バランスさせていくという、それはデータがないからとっても難しいことですが、例えば土砂が動きやすくするとか、水の流れが変化をするとか、そういう物理的な環境を変えることによって、外来種対策をとるだけではなくて、生えられないようにする。それから、生えたとしても、育ち切らないようにする。そういう視点が必要なんじゃないかなと。生えてしまったものを抜いていくとか、木でもそうですけれども、アカシアが生えてきたのだから、何で生えてきたかといえば洪水が来なかったから生えてきたのですよね。そうすると、洪水が来ない、湯水が来ないという現実を、今度はコントロールするのではなくて人工的に起こすことで、水のフラッシュだとかの変化を持たせることで生えられなくようにするようなシステム、技術というのかな、それをつくり上げていかないといけないのではないかなというふうに考えております。

本多委員

ありがとうございます。よろしいですか。はい。あと、田中さん。

田中哲夫委員

森下先生のおっしゃることはもったもな事なのですから、いわゆる日本在来の植物、あるいは河川性の動物、植物というのは日本の荒れ川に適応した生物がもともと住んでいたのだから荒れ川の状況にもし戻すことができたならば外来種の入る余地がないのではないかと、そういう話だと思うんですけれども。難しいですね。それは日本人が沖積平野に住めなくなりますからね。

森下委員

いや、そうではなくて、植物がそういうふうに生えられない、外来種が入ってこない程度のことは技術的にできるのではないかなと私は思っているのです。猪名川で起きてきたことを整理してみると、この40～50年の間に河道が固定してしまったことによって植物の外来種の問題というのが起きてきているのであれば、それを人工的に、例えばブルドーザーを入れてかき混ぜるなり河道を掘りこむなりして土砂を動かしていくことで更新が可能になるのではないかと。生えてきたものを抜くのではなくて、そこに生えてくる土質そのものとか、基盤そのものを変えていくような試みをしてみたらどうでしょうかということをお願いしているんです。

田中哲夫委員

攪乱の後に入ってくるパイオニアと、安定したところに入ってくる種類がいろいろ。外来種というのはすべてのところに入ってきていると思うのですよね。だから、要するに日本の生物がもともと日本の自然であったならば外来種の入る余地はなかなかないというのは確かだと思うのですけれども、そういう状況においては人間は実は住めないですよね。改変してきたことによって人間の住む範囲はふえてきたし、利便性は高まってきたし。そこをねらって外来種が入ってきているわけですね。それは、森下先生のおっしゃるようにパイオニアスピーシーズであろうが、サクセッション、遷移が進んだ安定の極相のところであろうが、すべてのところで僕は入ってきていると思うのですよ。それで、日本の植物、あるいはブラックバスとか、そういう動物もありますけど、日本の生物本来のものをどうするかというときに、やはり効果のあるときには取り除くということを錢かけてやるべきだと。例えばブラックバス、あるいはその次に入るかもしれないコクチバスとか、日本の自然を守るために、効果が見込めれば最初に錢かけて取り除くべきだという気がいたします。

森下先生の返答にはなっていないかもしれませんが、これは国粹主義かもしれませんが、そういう感じがいたします。決してパイオニアスピーシーズだけが入っているわけではなくて、外来種が、遷移の進んだ場所にも入ってきています。それは動物も植物も一緒だという気がします。

本多委員

はい、ありがとうございます。森下委員がおっしゃっているのは、個別の対応だけじゃなくて、もっと全体的な取り組みも必要ですよということを追加意見としておっしゃっていただいているんだと、私は思います。

時間がまた詰まってきましたので、引き続き治水の方へ行かせていただきたいと思います。それで、治水の方は、畑委員、畚野委員、細川委員、本多、矢野委員も一部書いてくださいましたので、1人3分程度でお願いしたいんですが、どちらから行きましょうか。畑さんは後から来られましたので、細川さんからお願いできますか。

細川委員

細川です。私が担当いたしましたのは、治水 - 1、3なのですが、治水 - 1について、猪名川では特定河川という指定を受けておりますので、猪名川流域総合治水対策協議会というものが既に存在します。それを水害に強い地域づくり協議会と兼務させるということに関しては流域対応を緊急に進めるという点で妥当と判断いたしました。その上で、猪名川流域治水対策協議会は従来の河川整備の域を出ていないということで、新たな河川整備として土地利用の規制・誘導、あるいは建築物の耐水化、流域内保水機能、貯留保水機能、貯留機能強化などを積極的に進める努力を求めるという内容にいたしました。

それから治水 - 3 ですが、みんなで守る、情報伝達や避難体制整備についてなのですが、大きく分けると2つの項目に分かれています。1つは水防活動に力を入れるという内容なのですが、これは既存の組織を中心に考えられておりますので、それだけではなくて、これからの高齢化社会に向け、自治体や福祉事業者や医療関係者などとの連携を進めるべきだというふうに意見いたしました。

それから第2に、今度は施設の問題なのですが、排水機場の運用について、猪名川流域総合治水対策協議会において、猪名川排水ポンプ場運転調整連絡に係る専門部会というものの設立を決議したという進捗状況なんですが、このことに関してはぜひ急ぐべきであるとしましたが、その中で、やはり被害は決して軽微ではないことを考えると、破堤しない堤防補強というものを急ぐべきであるとしてつけ加えました。

それから内水被害の予測される地域については先ほど申し上げたような土地利用の誘導や規制、それから建築物の耐水化などの流域対応を進めるべきであるというふうに意見いたしました。

本多委員

ありがとうございます。引き続き私の方も書いておりますので、細川さんと同じところの項目ですので、私の方からも。

治水 - 1 につきましては、いわゆる情報提供ということに重きが置かれておりますので、流域住民の協働とか協力とか連携というようなことも議論の中に入れていただいた方がいいのではないかと。それから、自分で守るというところ。これは治水 - 2 ですが、これにつきましてもいわゆる情報にかかわることや、啓発に重点が置かれていますが、住民との共同や連携について自分で守る活動及び啓発に取り組む、そのためにもレンジャーの活動というのも検討に加えてくださいということを書いております。

それから、治水 - 4 ですが、これは部分的になります、いわゆる保水機能の保全というところだけをとって、森林や水田の積極的な保全策を河川管理者、流域の自治体、それから流域の住民、地権者などを交えて保全する検討をしていただきたいと。そして、その検討の結果を実行できるような組織の立ち上げや活動支援など、実行性の高いものも検討するようにしていただきたいというふうにご書かせていただきました。

引き続きまして畚野さんの方からお願いできますか。

畚野委員

畚野です。4ページの真ん中あたりです。治水 - 14 - 11ということで、治水 - 14というのは緊急対策として必要な11区間についての堤防補強の問題であります。そのうち、特に14 - 11に当たる善法寺区間につきましては、特に優先的に実施すべきものとして堤防強化委員会などからの提案も踏まえて予定どおり平成16年に実施するというふうにご書かれていまして、これはぜひ優先的に実施できるように努力い

ただきたいと。ただ、できれば改善を願いたいということが2つございまして、1つは堤防強化委員会の報告によれば安全度照査結果というものについては、パイピング破壊と堤体浸食に対する補強工法を提案しているわけございまして、さらに望むらくは越水に対する工法で現時点で可能なものがあれば視野に入れていただきたいということをお願いします。

もう1つは、環境調査結果ということについても現在実施中と聞いておりますけれども、これについても結果を十分に反映した実施計画を立てていただければありがたいと思います。以上であります。

本多委員

ありがとうございます。引き続き畑委員の方から4ページと5ページにかけてお願いできますか。

畑委員

どうも、おくれてまいりまして。先ほどの畚野委員の下の部分ですけれども、これについて、私の誤解であれば幸いなのですが、堤防補強区間、14 - 1から11にかけて、この場所というのが図面では昭和35年8月洪水の実績降雨に対して、計算された流量で被害が発生している箇所と一致しているように見られるのですが、この計算条件で得られた破堤箇所というのは、堤防天端から余裕高を引いた水位に達したときに、それを越えたときに破堤する、あるいは溢水して破堤につながると。いろいろ条件はあろうかと思いますが、主にはそういう形の場所かと思うのです。そうなりますと、ここで堤防補強対策としてとられておりますのが浸透破壊といいますが、パイピング等の堤防川裏側の排水、即ち、堤防の外というんですか、その部分の漏水対策、そういうところが中心で、そして河川内部の方につきましては勾配を緩やかにするということで、河川断面が少し少なくなるということで、水位の面から言いますと、同じ流量で水位が高くなりますので、かえって溢水の危険性が高くなるということになります。

この点、シミュレーションによる場所の特定と、河川の堤防補強対策との整合性の問題でありまして、そういう問題がもしあるのであれば、全面的にこういう場所については河川断面を掘削というか、堤防のかさ上げとか、これはやらないということですが、そういう方法なりを使って通水能力を大きくするという工法がこの場所の特定と対応するということになろうかと思えます。そういう点で、もしそうならば全面的にこういう工事の工法が浸透破壊の防止というものをメインに挙げておられますので、それに対応する場所の特定が必要になります。そういう場所がかなりあるのではないかとお考えしますので、そういう調査をやって場所を特定しなければならないのではないかと、そういう気がいたしました。

それから、次のページの銀橋上流の狭窄部の浸水対策に関しましてですが、これにつきましては既に県の方でも工事をやられているということですが、無堤部の有堤化ということで堤防をつくるというのが直接的な、一番対応できる工法ではなかろうかと。それで、それをやらなくても以前から出て

おりますように、一庫ダムの貯水の利用です。関係集水域というのが銀橋上流域の半分ぐらいを占めるかと思しますので、ここで必要な貯水、洪水調節容量が確保できるならば、計画高水量によって異なりますけれども、確保される一庫ダムでの洪水調節容量によって、浸水被害が防げると。最も早い方法でありますので、そういう意味で利水転用による対策というのがまず優先的に考えられる必要があるのではないかと。早急な対策がとれるという意味でも、経済性という面でも、そういう検討が必要であろうということでございます。以上です。

本多委員

ありがとうございます。引き続き5ページなんですけど、3段飛びまして治水-22というところを矢野委員から。

矢野委員

これは要するに「川西池田地区の築堤を実施」という項目なのでございますけれども、今回の23号台風でもあちこち浸水、それから道路の冠水等々も見舞われておりますし、こういうことで猪名川水系におきましても、先ほども畑先生のお話にもございましたように、ぜひとも築堤は、必要であろうということでございます。特に池田地区では850mほど、両岸が無堤地区になっております。この辺が非常に問題であろうということでございます。ただ、ここにすぐに築堤を実施するとしますと、下流部の河川整備状況に留意しながらやっていかなきゃいけないということもございまして、実際には長期の協議期間が必要で非常に時間がかかるということもございます。このため優先順位を上げて築堤の方向で、また堤防の補強工事等を早急に進めていただきたいということを書いております。

本多委員

ありがとうございます。そうしましたら、この件についてもう少し、10分ぐらいしか時間ありませんが、議論をしてみたいと思います。それで、特に治水部会等々でかかわってくださっていた委員の皆さんからもご意見をいただきたいんですが、池淵委員、畚野委員、森下委員、今本委員、もしご発言がございましたらお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

池淵部会長代理

今、畑委員からのご意見の中でクエスチョンがあるので。我々が今まで聞いてきた内容で、緊急堤防補強区間の選定、選考というのは背後地に非常に住宅密集があって、被害があれだとか、幾つかの選定基準があって、それで選ばれたというように理解しておったものなので、35年8月洪水の氾濫による選考でなされたか、そのあたりはこの間からいろいろ説明を聞いてきた部分とちょっと整合性が問われていると思しますので、もう一回確認で河川管理者に聞きたいと思うんですけど、いかがですかね。いろんな区間を選考されて、総延長何ぼとかそういう形のものを描いてきた説明をそれなりに聞いていたも

ので。

本多委員

はい、よろしいですか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

猪名川の林です。先ほどの緊急区間5 kmですが、すべての区間について調査検討する必要がある。その中で、今、池淵委員が言われましたように、当面の緊急性の要素の条件がある。背後地等の重要性、または氾濫区域の拡大等を考慮しまして、浸透、洗掘に応急するものについては、当面5 km区間について、調査検討して速やかに対策を講じていくということで今やらせていただいております。昭和35年8月というのは、35年が既往最大ですので、そこで堤防の洗掘とか浸透に伴って氾濫が起こった場合、そういう状況がございますということのシミュレーションを行っております。以上です。

本多委員

ありがとうございます。よろしいですか。矢野委員、よろしいですか。はい。ほかにご意見は、はい、今本委員、お願いします。

今本委員

治水については、いわゆるいかなる大洪水に対しても被害を回避軽減しようという大目標を立てているわけです。その目標に一步でも近づくために、今やっていることがいいのかどうか。そういう観点から私は見ているわけですね。そうしますと、例えば堤防補強については、現在のところ浸透と洗掘に対したもので、越水についてはなかなか対象にされない。現在の堤防よりも補強した堤防の方が越水に対しても強くなるということわかります。それをぜひもう一步進めてもらいたいというのが1点です。

それと、先ほどの環境にも関係するんですけども、治水をやる場合に環境にも配慮しなさいということが入っているわけです。そういう観点から見ますと、高水敷を今後どういうふうにしていくのか。これのことがまだ当面の対象にされていないんですよね。これは当然環境だけでなく利用にも関係してくると思いますけども、ぜひこれまでのような、先ほどから言われていますように冠水しなくなったとか、そういうことを解消するためにも、どの程度の高さがいいのかわかりませんが、少なくとも高水敷を下げることは治水面ではプラスですし、先行的にでも考えていただきたい。これは希望です。

本多委員

ありがとうございます。よろしいですか。はい、畑委員。

畑委員

先ほどの河川管理者の回答はお答えになっていないのではないかと思いますけども、要するにこの

シミュレーションが5 km区間とおっしゃいましたけれども、ここで補修すべき箇所として11カ所挙げられている、その箇所というのはシミュレーションの結果を参考にされて決められているのかどうかというところですよ。

本多委員

お願いします。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

猪名川の林です。5 km区間につきましては、先ほども言わせていただきましたように、背後地の利用形態、もしくは氾濫から拡大していく、水害に拡大するような箇所を当面の緊急区間として選ばせてもらいました。対策を講じるのはすべての区間について調査をさせてもらおうと。5 km区間もそれについて堤防の強度等については浸透、洗掘につきましては、これから調査をさせていただきます、ことし12月ぐらいまでにはその対策を講じる箇所と必要のない箇所を選定したいというふうに思っております。

畑委員

よろしいでしょうか。この整備シートの図面によりますと、それぞれ補修箇所というのが35年8月の豪雨だと思うのですが、この計算で氾濫したところと一致しているのですよね。ということは、主に通水断面を越える箇所というのが特定されているのではないかとということで、それが非常に心配なのです。もしそこに私のコメントとして書いておりますように、それぞれ場所によっては川裏側というんですか、道路があったり、かなり補強されている面がある。そういうところにさらに排水路を設定されて、浸透阻害を起こさないように工夫されているのですけれども、浸透する長さ、浸透路長の面で十分に、ほかの堤防箇所と比べてより安全なところもその中に入っているのですけれども、ほかにももっとそういう浸透破壊による危険性のある箇所があるのではないかと。そういう心配をしているのですが、いかがでしょうか。

本多委員

お願いします。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

その堤防の背後地とか重要性を考慮して、当面の緊急ということでも言わせていただいて、その中で洗掘防止、浸透ですね、そのパイピングを含めた浸透、そういうものを今調査させていただいている最中でして、洗掘からいきますと、護岸の施してない補強の施してない施設というのは優先順位は高いと思います。浸透につきましては土質調査等を行っておりますので、その結果を踏まえまして対策が必要ないかを評価していきたいと思っております。

堤防延長がすべてで30数kmございまして、そのうちの緊急性の高いところは5 kmございまして、当

面はそれを先にやらせてもらい、引き続き、その残りの区間の20数kmにつきましても順次やっていきたいと思っております。

本多委員

はい。よろしいですか。森下先生、何か。はい。

森下委員

多分かみ合っていないだと思んですけどね。河川法に環境が入ってないときの治水の計画を今ずっとまだ引きずっているんですね。高水敷をもう少し下げるとか本来の川の姿にしようというのと、自然再生法が加わっているにもかかわらず環境に対する認識があまり変わっていないそのために、理解ができないところがあるのね。

高水敷を広くとることがその地域に貢献するという意味ではよかったというのは事実なのですが、河川の自然環境というのを見たときに、どうもそれでは川の中の生物は守れない、自然のリズムがどうもおかしくなっているよというのがありますね。そんなことを環境が加わった機会に一遍見直しましょうということになっているのであれば、今本先生がおっしゃったように、高水敷をとることが可能なのかどうかということを河川技術者が説明されて、そして、とっても難しいから、それでほかのことも考え、ここまで来ましたということにいけばまだお話が通じると思うんですけども。

そういうことの議論がされずとにかく調査をされその結果、本当のところは調査というのは、目標があって結論に見通しがあって調査するのであって、調査をしているからいいということじゃないんですね。何のために調査をしているのか、どういう結論が得られるのかということを示さないといけからは調査費を使うわけに多分いかないと思うのですよね。

本当に高水敷をそのままにしたままで築堤だけをしていくとかいうようなことが、猪名川の全体、これからの将来にわたっていいことなのかどうかということで、緊急を要するのはよくわかるのですが、これからは緊急を要するときでもそういうことをちゃんと考えないといけなはずです。

本多委員

ありがとうございます。

細川さん、特に堤防強化なんかでは地域性もあるかと思いますが、ご意見はございますか。

細川委員

細川です。今、畚野委員と畑委員から堤防補強についてのご意見を紹介していただいたのですが、やはり善法寺地区については今年度中ということなんですが、私としては、越水に対する十分な対策がとれない段階での実施というものは賛成しかねると思っています。善法寺地区の場合は特に猪名川の中でも最下流の地域ですので、当然高潮とか津波の危険、越水の危険というのは最も高い場所ですので、

その場所で越水対策を十分にとらないままの工法で堤防補強することには賛成しかねます。

本多委員

ありがとうございます。治水について、あと最後、どなたかございましたら。よろしいですか。

では、すいません。時間がまた詰まっておりますので引き続き利水の方へ行きたいと思えます。

5ページなのですが、ちょっと皆さんに訂正していただきたいことがあります。2段目、3段目のところですが、利水 - 1、2について、「畚野委員」となっておりますが「細川委員」の間違いでございますので、両方とも「細川委員」というふうに訂正をお願いいたします。

この利水につきましては、細川委員、私、それから矢野委員の方で検討をいただきましたので順次ご発言をいただきたいと思えます。

すいません、今回は、では、矢野委員からお願いできますか。

矢野委員

私の方は、文章にはなっていないんですけども、利水 - 1、2、それから4について検討させていただきました。

御存じのように、現在水道事業等々の利水についての論議がされており、国土交通省の河川管理者の方から要請を受けまして、府県単位でのワーキンググループ等々を立ち上げ、各水道事業体でも鋭意、実は本当に今までにない真剣味を帯びてワーキングで検討しているところでございます。

この水需要の見直しにつきましては、水需要というのはあくまで各自治体の都市容量であるとか経済状態、人口動態を踏まえて決めていくものでございます。このため、なかなかすぐには決められないというのが実情でございます。ただ、言えることは、従来型のいわゆる成長、人口増というだけのことでなくて、やはり少子高齢化のこと、それから都市の全体の今の動態等々も踏まえ、本流域委員会で論議されていますような環境節水型の社会等のことも考慮に入れながら、現在精査検討しているというふう聞いております。

水需要予測の策定については、各自治体での行政的なレベルでやっておりますので、最終的には各首長さんとか、それから議会の承認を得なきゃいけないということで、随分時間がかかってしまうというのも実情でございます。このため本委員会の論議の中に早目に新たな水需要予測の結果が入ってくるといのはちょっと難しいのかなという感じを受けております。

それから、水利権の見直しと用途間の転用につきましては、既に具体的に本委員会での中間報告等々にも記載されておりますけれども、用途転用が図られていくようでございますので、当然のこととして猪名川水系への利水に関する負担というのはかなり軽減されていくのではないかなと思っております。

あと、湧水対策会議の改正の調整というのが利水 - 4のところにごございましたけれども、この中で、

利水者、自治体、関係省庁、そういうのが会議を持ちまして、もちろん関係省庁の中には厚生労働省、農林水産省、それから経済産業省等々が入っておりますけれども。

こういう渇水時になりますと非常に水質の悪化が認められます。平成6年に貯水池で約10%の貯水率といった厳しい渇水状態になったことがございますが、ほとんど貯水池の底水を利用しているような状態になります。そうしますと、水質的にも大変悪化した低水をとらなきゃいけませんので、利水処理上非常に問題が生じてまいりました。それから、当然のことながら、それだけ水の量が減ってまいりますと汚濁濃縮というのが発生し、かなり濃縮された状態になってきます。これらのことより、やはり水質的なことを考えていただいて、渇水対策会議に環境省関係の方も入っていただくような方策をとっていただければと思っています。

本多委員

ありがとうございます。では、細川委員、お願いします。

細川委員

細川です。利水の1番、2番について検討させていただきました。

まず、利水 - 1なのですが、水需要の精査確認が各利水者で始まっているということの評価いたします。その上で、この結果を速やかに提出していただけるようにさらに努力をしていただきたい。さらに、予測の精度の点検についても検討が必要だと考えています。

それから、猪名川の利水に関しては農業用水が重要ですので、農業用水についても水需要の精査をさらに踏み込んで検討していただきたいということを述べました。

それから、利水 - 2ですが、渇水対策会議で調整が進むことを期待しています。ただし、現在のところは工業用水道の用途間転用だけしか進んでいませんので、農業用水の水需要の精査、さらに許可水利権化を進めるといった農業用水との用途間転用が進められるような水需要の管理が、これから先望まれると思います。

それから、この利水のところでは書かなかったんですが、一庫ダムについて、治水能力をさらに高めるために利水をできるだけ振りかえるということは考えられるのではないかと思います、県営水道、兵庫県の場合は多田浄水場で送水管の設備がまだ進んでおりませんが、その進捗状況によっては県営水道への振りかえということも可能ではないかということも思いました。

本多委員

ありがとうございます。

私の方からは利水 - 4ですが、これは今までの委員会でも意見を言いましたが、水需要抑制に基づく節水のPRについて、キャンペーンに終わらせてほしくないということと、目標を持って達成できるよ

うにしていきたい。それから、地域で既に取り組んでおられる自治体やNPOと連携して進めていきたい。河川レンジャーの課題にもして、流域住民の節水が進む普及、啓発などにも取り組んでいきたいというふうに書かせていただきました。

利水については、利水部会長を池淵委員がしておられたと思いますし、今本委員も利水部会に所属されておられましたね。とりあえずお2人から何かコメントがあればいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

池淵部会長代理

この猪名川に関連することとして、尼崎工水の転用という形のもが既に俎上に上っておるやに、説明も聞かせていただいているのですが。

最近、尼崎のいろんな工場跡地の、誘致とか発展等々でまた要するという、戻るといふか、そういう形のもが生まれるのか否か、そのあたりがちょっと気になって。特に尼崎工水のやつは俎上に上がっているのですが、その精査確認の進捗が、特に猪名川においては関心として非常に大きいので、そのあたりの内容や状況、精査確認が、ほかのレベルと同等ではなしに非常に早く欲しいなという気もしております。まずはそれをちょっとお伺いしたいし求めたいというふうに思ったりしておりますが。

本多委員

ありがとうございます。今本委員からはありますか。

今本委員

私はこの利水について気がかりなのは、1つは長期的な少雨傾向と言われるものと、それとたとえ水量は一定でも洪水のときは一挙に降るわけですね。それで、降らないときが多い。こういうものが非常に懸念されると言われているのですが、本当にされることなのかどうなのか。本当にそれを懸念した場合、我々は何をしておけばいいのか。これは将来の課題としてやはり真剣に考えていかなければならない問題だなと自覚しています。

本多委員

ありがとうございます。

利水についてどなたかほかにご意見はございますか。よろしいですか。ここではとりあえずまとめはしませんので。検討会の方で詰めていきたいと思えます。とりあえずご意見をいただくということにしておきたいと思えますが。特になければ次に進ませていただいでよろしいですか。

次はダムなんです、ダムというのはダムワーキングの方でやっておりますので、特に余野川ダムにかかわることではなく、いわゆる狭窄部上流対策という意味での代替案について検討した部分でございます。

これにつきましては細川委員、私ですね。細川委員、お願いします。

すいません、細川委員のまとめていただいた部分が幾つか間に合わなくて載っていないのがあります。載っていないですが、全部たしか書いていただいたと思いますので、一応トータルにお話しただけたらと思います。

細川委員

ないやつ忘れた。細川です。

ダム - 22は余野川ダムということになっていますが、猪名川の狭窄部上流対策の検討です。代替案がたくさん出ているのですけれども、出ていた順番とちょっとばらばらなんですけれども、まず一庫ダムの治水能力の強化ということで出ている事業について意見を述べていきます。

まず、一庫ダムの予備放流なのですが、操作規則を変更するだけで可能であるので今後検討の余地を残すべきであるということにいたしました。さらに、できるだけ上水の利水容量を他の水源に移すということを考えていくべきであるということで、余野川ダムあるいは大阪府営水への利水容量の振りかえだけではなくて、今後多田浄水場の送水管の事業の進捗に合わせ、県営水道へ兵庫県分の利水容量を振りかえることも考えられるのではないかと。それから、降雨予測の精度をもっと上げて予備放流が可能であるように進めていきたいというようなことを述べております。

狭窄部開削に関しては、本多委員とほとんど意見が変わっていませんので述べるのは控えました。

一庫ダムのかさ上げ案についてですが、これは計画では補償費用などが非常に大きくなっております。サーチャージ水位は2mの余裕高があるので、ゲート補強なしでも余裕高いっぱい貯水は可能ではないのか、それから水没する道路はつけかえをせず通行どめにするなどの、できる限りソフト対応で実現を検討すべきであると意見を述べました。

それから、事業で出ていた順番とちょっと前後するのですが、一庫ダムの放流操作の変更案については、もともと一庫ダムには $650\text{m}^3/\text{s}$ の放流能力があると。下流河川の流下能力の増大に合わせて検討すべきである。多田地区の住民には放流操作に対する不信感が強く、そのことも配慮すべきであるというふう述べてました。

それから、一庫ダムの利水容量の振りかえについては、利水容量を振りかえて治水効果を高めることは有効である。ただし、余野川ダムへの振りかえは、振りかえ時の供給能力には同等性に問題があり、大阪府営水道への振りかえも可能であるので、この振りかえをもってダム建設の理由にはできない。大阪府営水道の振りかえは、古江での取水が可能であり、運用での課題を検討し進めるべきである。それから、兵庫県分の利水容量の県営水道への振りかえも検討すべきであるということ述べました。

それから、一庫ダムの堆砂容量の活用案については、既存のダムの寿命をできる限り延ばすという観

点で、貯砂ダムの効果はたとえ軽微であっても検討すべきである。ただし、現在計画されているものに関しては環境、景観への影響が懸念されるので、その問題を改善できるのであれば事業を今後検討する余地があると考えました。ただし、できれば、排砂はできないということではなく、排砂の方法の改善あるいは空き容量の活用といった面も考慮すべきであるということにしました。

それから、分水路の設置案に関しては、本川の流量の軽減を図るものであるが、その流入先は一庫ダムであることが問題であると。治水機能の強化を優先すべきであるので、まず一庫ダムの治水機能の強化を優先して行った上で、分水路は周辺地域への影響、あるいは費用に見合う効果があるかを検討すべきであるというふうに述べました。

あとは流域対応になってくるのですが、既設調整池の機能の向上に関しては、実施の可能性の調査を進めて、治水効果が上げられるものは実施すべきであるというふうに結論しました。

それから、あと私が書いたのは載っていないのですが、新たな遊水地案に関しては、地権者の理解を得るなど費用の問題などに課題を残しているので、できるならば水田の維持ということを重要視してその対策を進めるべきであるというふうにしました。

森林の保水機能は本多さんの意見と変わっていません。

水田の活用及びため池の活用案に関しても、かさ上げという方法には問題がある。ただし、水田、ため池の維持ということには今後取り組む必要があるので、そのことを検討すべきであるという意見にいたしました。

それから、家屋の浸水対策については、すいません、忘れました。

本多委員

ありがとうございます。

細川委員がおっしゃった内容で、若干私の意見と違うようなニュアンスのところもあるようなのですが、先ほどよくよく話をしてみますとそんな深刻なことではなく、同じようなことを違う言い回しで言っているだけなんだなということがありましたので、ほとんど同じ内容だろうと思います。

特に、ため池や森林の保水機能や水田の活用というようなところについて言うならば、今ある環境が既に貢献をしているわけですから、それを少なくとも維持するような方策を考える方が大切なのではないのかなというふうに書いてございます。あとは大体同じようなことだと思いますのでこれはこの辺で終わります。

代替案についての意見が終わりましたが、ほかの皆さんからご意見があればちょうだいしたいんですがどうでしょうか。はい、どうぞ。

今本委員

この狭窄部上流の部分については、代替案という呼び方をしていますが私も代替案とは思っていません。これは余野川ダムのできる、できないにかかわらずやるべきことですね、また余野川ダムそのものが狭窄部より下流にあるわけですから、もともと言い回しは非常に辛いところです。

ただ、私がこの多田地区で思うのは、幾ら努力しても解決は困難であるということです。ここは特にまちの中心部の地盤が低いということも問題ですし、たとえ狭窄部を少々開削しようともこの地区はこれからも浸水を続けるであろうと思います。幾ら河川改修をやっても内水でも浸水するわけですね。本来こういうところに人家を密集さすべきでないのにそうってしまった。これを長期的に解決することを視野に入れながらやっていかないとこの問題は非常に解決が難しい。残念ながら、この地区では、先日の水害でバスが水没したようなことだって起こり得るところだと思います。そういう意味で、川だけに頼らずほかの方法を併用することが特に必要だという気がしています。

本多委員

ありがとうございます。

それから、この件に関しましては後ほどまた議題にあるかと思いますが、上流部の目標洪水について検討見直しが入っているということがございます。それと、やはりソフト対策が必要なのかなということもどこかに意見が述べられていたというふうに思います。この件につきましてはほかにご意見はございますか。よろしいですか。

じゃ、すいません。物すごく時間を焦っております。最後、利用と維持と計画を一遍にやりたいと思います。利用については細川さん、服部さん、維持については服部さん、計画については私ということでそれぞれお願いしたいと思います。

それでは、まず細川さんからお願いしましょうか。

細川委員

細川です。利用 - 6 について意見を述べさせていただきます。

河川保全利用委員会の運営に際し、意見書を踏まえ、実行性のある、すなわち河川でなければ利用できない利用というものを促進する方針を明確にし、実現するよう進めてほしいということを述べました。

高度に高水敷利用されている猪名川の現状から、具体的な縮小目標を設定すべきである。また、次の利用申請の更新時までには代替地の確保を利用者に要請し、その努力も評価の対象とする。あるいは、高水敷の利用は治水上マイナスであることは明白であり、利用者は応分の負担を負うべきである。今後利用者の負担も課すよう見直すことが必要である。利用者みずから運動公園を切り下げ自然公園へ転換する場合は、負担の軽減も含めて評価すべきであるというふうに述べました。ちょっと文章が説明不足で

すが。

まず、治水上のマイナス面について、今まででしたらば、高水敷の利用について多くの負担は求められていなかったわけですが、それをきちんとした負担を検討することも考えてよいのではないかというふうに思います。また、運動公園ではなくて高水敷の切り下げを行って自然公園への方向転換をするのであれば、そういうことも評価の対象とするべきである。河川保全利用委員会でそういった利用者の努力というものも評価していくことが検討されてもいいのではないかというふうに思います。

本多委員

ありがとうございます。では、引き続きまして服部委員、お願いします。

服部委員

服部です。この点については細川さんとお話したので、大体僕の、6ページに書いてある内容が同じようになっています。

要は、この淀川の流域委員会ということで高水敷の利用率が20%とか25%というような他の河川と同じように猪名川を考えるのではなくて、ここの特殊性ですね、65%という現状をよく見て、まずその辺から出発しなきゃいけないのではないかと。

ですから、河川保全利用委員会に意見を聞くというのがありますけれど、この現状をきっちり押さえないで意見を聞いても結局現状と同じようになってしまう。そこがやっぱりおかしい。ですから、せめて、意見を聞くという程度にするのであれば、まず高水敷の利用率をほかの河川並みに落としてから意見を聞くような形が本来必要なんじゃないかと。

高水敷を切り下げることによって、先ほどもお話にありましたように、治水上にも全く問題なくむしろプラスであるというようなこともありますし、猪名川における高水敷の利用に関しては、やっぱり他の河川とは違うという前提をきっちり立てていただかないと、ほかの河川と同じような形では非常にまずいということを細川さんと同じように書いております。以上です。

本多委員

維持の方も。

服部委員

それから、その下に維持ということで、堤防等の除草のことで書いています。

ここで気になりましたのは、僕は植生が専門なのですが、堤防に植生工をやるに当たって、今国土交通省で張り芝工をやっておられますが、あの張り芝工というのは堤防補強上最強のやり方です。あと、草の種をまくとかいうのは非常に安全率が低くてこの張り芝が非常に正しい。その辺のことをきっちり認識された方がいいんじゃないかと。張り芝を行って年に2回草刈りをするによって、違う

タイプの草原に変わっている。違うタイプというのも、堤防補強上最強の日本の在来野草が変わっていく。

だから、この辺の認識がなく、単なる除草みたいな形で書かれているのです。ご前から気になっていたのですが、この辺をもう少し詰められたら。これは別に国土交通省のやっておられる方法が間違いというわけじゃない。もう少し正しいという認識を持たれた方がいいんじゃないかなということで書いてみました。以上です。

本多委員

ありがとうございます。

では、私の方からは1ページに戻りますが。計画 - 1ですね。

河川レンジャーについては、河川管理者の河川整備計画基礎案における住民との連携や意見聴取などの項目を洗い出して、河川管理者が河川レンジャーに求める役割や項目を明らかにした上で、仕組みや人材確保、養成、活動内容、試行などといった内容を準備会の方に検討を求めてくださいということが書いてございます。以上です。

もう最後になりましたが、この件について、どなたでも結構です、ご意見がございましたらお願いしたいんですが。はい、田中委員。

田中哲夫委員

委員の田中です。ちょっと外れるのですけれども、極めてプリミティブな質問なのですけれど。

河川の横断的な方向の連続性を確保するにも、あるいは治水に対して計画高水の河川断面を確保するに対しても、高水敷というのは不必要なものだから邪魔であるということが今多々出ているわけですが、その邪魔であるものを今までにつくってきたと僕は思えないのですね。

高水敷の意味というのはやっぱりあったと私自身は思うのですけれども、大分ピントを外れていますけれども、高水敷の意味というのは、僕自身の解釈では、例えば淀川のワンドとかというのは、要するにほっといたら沖積平野の中部から下流の方で河川というのはどんどん堆積環境になると。そこで、流速を確保しようということでワンドをつくり、そして真ん中で土砂を大阪湾の方に流させて、あるいはそのほかのところでは高水敷と低水敷を分けることによって低水敷の流水の運搬力を確保しようとした。ということは、堆積させないようにさせないようにしてきたのですね。計画できないところには堆積させない、思いもよらないところには堆積させないというのが高水敷をつくった理由なのではないかと。

その高水敷を切り下げることによって、確かに河川の横断の生態的な移行帯というのは確保できるかもしれないけれども、予期せぬところに堆積するという結果を生んで、治水という面からはやはり障害になるのではないかと、そのために高水敷というのを確保してきたのではないかと私は素人ながら

考えているのですけれども、それはどうなのでしょう。

今本委員

全くの誤りです。

田中哲夫委員

あっ、そうですか。それならいいのです。

今本委員

そんな考えで高水敷を考えてもらっちゃ困ります。

淀川の場合はワンドをつくらうと思ってやったのじゃないです。川幅の広い中を航路を維持するために横堤を出していったのです。それが残ってワンドになった。

それから、今で唯一合っていたのは土砂が余り堆積しない。狭めて流速を確保しますと土砂がたまらないのですが、ふだんはね、土砂がたまるというよりも水深を維持するためにやった工法です。

それから、治水上高水敷は要らないのではないか。冗談じゃありません。当然高水敷は高水敷として要ります。

余りにも今の考え方は、生態学者としては正しいのしょうけども、ちょっと河川工学をやってきた人間としてはかなり違いますので、そのところはまた議論したいと思います。

田中哲夫委員

そのような認識を深める場でありますので、どうもありがとうございます。

今本委員

いえいえ。

本多委員

ありがとうございます。維持と計画と利用ですが、ほかにご意見はございませんか。よろしいですか。はい。

そうしましたら、まだほかの議事もございますので、とりあえず一たんここで15分ほど休憩を。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

本多委員、ちょっとよろしいでしょうか。

本多委員

はい。すいません、じゃ、どうぞ。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

先ほど細川委員の方から、善法寺の補強策については越水も考慮するということですが、越水については水系で今いろいろ考えているのと、本当に河川全体のものをこれから長期的に考えなければ、これ

を踏み込むわけにちょっといかない面がございます。

今まさに浸透と洗掘が、どうしてもあの地区には、欠けていると、数値よりも落ちているということですので、あそこにつきましては当面早急にやっていって、いろんなところで環境を含めながらモニタリングをしていって、その成果についてまたこの場等で公表させていただきたいと思っておりますので、これは引き続き16年に実施を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本多委員

ありがとうございます。はい、じゃ、どうぞ。

今本委員

こういうお話を聞いていると非常に悲しくなるのですよ。

ことしだけ見ても、新潟から福井から、また台風23号に至るまで、何度も何度も破堤を繰り返してきているのです。これが被害を大きくしている。破堤を防ぐ方法は確かに今ありません。しかし、あるかもわからない。事実、越水しても切れてないところがあるからです。やはりねえ、もうそのところの考え方を変えてもらうか、そういう考えの人は早くやめてもらうか。どうしても日本の治水はね、破堤しないことを念頭に置かないといけないと思ひます。

本多委員

ありがとうございます。流域委員会でも越水の問題というのは随分議論されていますので、これは河川管理者にくれぐれもお願ひして、技術的な検討も早急に解決していただいて、やっていただけたところはやっていただきたいということではないかと思ひます。

申しわけございませんが、きょうのこの内容につきましては引き続きまた検討会の方で煮詰めさせていただくということで、きょうこの部会の後からも引き続きやりたいと思ひますので、これで休憩に入らせていただきたいと思ひます。庶務の方、よろしくお願ひします。

庶務（みずほ情報総研 鈴木）

これから休憩に入らせていただきます。休憩は15分ということでよろしいでしょうか。

池淵部会長代理

時間があれやから10分にしましょうか。

庶務（みずほ情報総研 鈴木）

それでは、10分ということで、5時50分からの再開ということにさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、801に控え室を設けてございます。エレベーターでお入りて右側に折れさせていただくか、エレベーター横の階段をお入りていただいて正面です。

池淵部会長代理

それなら15分で。

庶務（みずほ情報総研 鈴木）

すいません、それでは、休憩は15分ということで、55分再開にさせていただきます。

また、喫煙される方はエレベーター左側のスペースが喫煙の場所になってございますのでご利用ください。よろしくお願いいたします。

〔午後 5時40分 休憩〕

〔午後 5時55分 再開〕

庶務（みずほ情報総研 鈴木）

それでは、55分になりましたので再開いたします。よろしくお願いいたします。

2）河川管理者からの報告

池淵部会長代理

それでは、この議題の2以降につきましては、部会長代理を務めておりますので私の方で議事進行を務めさせていただきたいと思っております。

議題の2でございますが、既にごございましたように猪名川の狭窄部上流の目標洪水は既往最大規模というようなことで、従前から昭和35年の実績で検討等をしてきたところでございますけれども、猪名川部会等でも非常に大きいのではないかと、あるいは浸水被害の解消はできない、軽減という言葉といたしましても、そういう形のものでございました。

それで、先般ダムワーキングとか猪名川部会でも河川管理者さんの方から、狭窄部上流の目標洪水については見直しも含めて検討したいという説明等がございました。きょうは見直し、検討というテーマをいただきまして、河川管理者さんの方から説明をいただいて、猪名川として狭窄部上流はこのような目標洪水を展開するということについてご審議いただくという次第でございます。

最初に、河川管理者さんの方からこの猪名川狭窄部上流の目標洪水についてご説明を賜りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

猪名川総合開発の小畑でございます。猪名川狭窄部上流の目標洪水についてご説明させていただきます。資料2でございます。

これまで、35年8月の洪水を目標洪水としまして皆さん方にご説明させていただいておったわけですが、この35年8月の洪水につきましては、他の洪水と比べまして特に大きい日雨量を示しているということと、かつ1山目が猪名川流域に、また2山目が一庫大路地川流域に偏って降っておるとい

う特異な降雨パターンでございました。また、この35年8月洪水におきましては、他の狭窄部上流と比較しても大きく、この洪水を目標とするについては過大であるというような意見もいただきまして、目標洪水の見直しを行うということにさせていただきました。

それで、目標洪水についての再検討でございますが、既往第2位以下の洪水を検討対象洪水といたしてございます。次ページの表-1に示してございますが、この昭和35年8月洪水を含めまして11洪水について検討をしてございます。この中で、銀橋地点の現況計算ピーク流量が第2位でございます昭和58年9月洪水を目標洪水ということで考えていきたいというふうに思っております。

また、昭和57年より、猪名川におきましては総合治水対策特定河川として事業の進捗を図ってございます。この総合治水対策計画といたしまして地元の方に公表してございます目標洪水は、昭和28年9月洪水の1.05倍の洪水でございますけれども、この洪水に対しましても浸水被害が軽減するようあわせて検討を行っていきたいというふうに考えてございます。

代表的な洪水について、次の2ページに整理してございます。左の方から、洪水名、小戸地点の上流域の平均日雨量、そしての銀橋地点現況計算ピーク流量でございますが、これの条件といたしましては、河道並びに流域の土地利用については現況の整備状態ということと、一庫ダムの操作は現行の150 m^3/s の一定放流ということで、計算して順位づけも行っております。

次のの銀橋地点計算ピーク流量でございますが、これは河道が全部改修されたということで、氾濫はさせないという状態で、流域の土地利用等は現況で設定してございます。一庫ダムはない状態で設定してございます。上流域で降った雨が氾濫なしに、銀橋地点で全体で何 m^3/s 流れておるのかということで計算をしたものでございます。

それと、の狭窄部上流の浸水想定被害額におきましては、この銀橋地点の現況の計算ピーク流量が再来したということでシミュレーションをしております。破堤の条件といたしましては、堤防が整備されておる箇所におきましては「堤防天端 - 余裕高」で破堤する。堤防がない箇所については越水するというように計算してございます。

の銀橋地点の現況計算ピーク流量を見ていただきたいのですけれども、今までにおきましては、上から3つ目の昭和35年8月の1,628 m^3/s 、順位が1位ということでご説明させていただいておったわけでございますが、目標洪水の見直しによりまして、下から4つ目の昭和58年9月洪水、日雨量が136mm、銀橋地点での流量が1,015 m^3/s で既往2位、狭窄部上流については被害額が71億円という結果が出てございまして、この銀橋地点での現況計算ピーク流量が既往第2位の昭和58年洪水を目標洪水といたしまして、今まで説明をさせていただいた浸水被害の軽減を図るための一庫ダムの治水機能の強化案ですとか流域での対策案について被害額の検討を行っていきたいというふうに考えてございます。

次の3ページでございますが、これが今の対象洪水、昭和58年洪水が再来した場合のシミュレーションでございます。右のところに被害額から氾濫面積ということで数値を示してございます。また、下の方につきましては、現在総合治水対策の目標洪水は28年の1.05ということで計画してございますが、これが再来したときの氾濫シミュレーションでございます。これについても被害額等は横に示しておるとおりでございます。

この被害額、上下を見ていただきますと、総合治水目標につきましては矢間川等の上流が氾濫しておりますが、塩川とか矢間川までの流量はこの28年洪水の方が大きくて、上流で氾濫をしておるといことでございます。

また、塩川、矢間川から下流につきましては、左岸側、図面の右の方が浸水区域が大きくなってございますが、昭和58年9月洪水では塩川と矢間川のピーク流量と本川のピーク流量が同時期でございます。多くの量が下流に流れておるとい状況でございます。

総合治水の下流の方は氾濫面積等は小さくなってございますが、これにつきましては矢間川並びに塩川のピーク流量が本川のピーク以前に来てございまして、先に出てしまっておるといことで氾濫域が小さくなっておるといシミュレーション結果でございます。

次の4ページでございます。前回の猪名川部会で、既往最大洪水のデータを示してくださいといことでございました。それで、主要11洪水につきまして、猪名川の各代表地点における計算ピーク流量を示してございます。

条件につきましては、当時の降雨量ですとか降雨波形をそのまま再現しておることと、河道は全部改修されたといことで、すべての洪水が氾濫しないで河道に集まった場合の流量といことで数値を記入してございます。一庫ダムにつきましてもないという状態で計算を行ったものでございます。地点におきましては、狭窄部上流の銀橋地点、そして余野川合流部下流の猪名川の基準地点でございます小戸地点、それと猪名川の最下流点でございます戸の内地点、これらの各地点におきます流量を整理して書かせていただいております。

昭和35年8月、これは小戸の基準地点では $2,292\text{m}^3/\text{s}$ といことで既往最大でございます。今回目標にしておる昭和58年9月が $1,798\text{m}^3/\text{s}$ で2位と、一番上でございますが28年9月が $1,775\text{m}^3/\text{s}$ で3位、以下11位までがこのような計算結果となっております。以上でございます。

池淵部会長代理

はい。従前から、この狭窄部については既往最大規模というお話であったんですが、きょうは目標洪水の再検討といことで、お示しいただいた内容からすると第2位の昭和58年9月を狭窄部上流の目標と描いてという形で検討したいといご説明等でございます。

第1位、第2位ということで数値等がいろいろ示されておりますけども、部会の委員の皆さん方、目標洪水ということについて、今までいろいろ意見を言ってきておるところも含めてご審議等を賜ればと思っておりますが、いかがでしょうか。どうぞ。

細川委員

すいません、ちょっと確認させていただきたいんですが。

銀橋地点の現況計算ピーク流量の方の「現況の整備状態」ですが、これは川西・池田の無堤地区はまだふさがっていない状態でのシミュレーションなのでしょうか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

銀橋の上流ということで計算をしてございまして、この銀橋上流については、多田大橋から矢間川付近までが左右岸にわたって県さんにより堤防ができてございます。それと、それより上流についてはまだ整備ができておらないということで、そういう地形条件を入れてやってございます。

下流の川西・池田地区につきましては、平成18年度を目途に概成ができる見込みということになってございますので、そこにおきましては一応改修がされたものという考え方で計算をしてございます。

池淵部会長代理

どうぞ。

畑委員

今回の計算で、その計算精度の関係もありましてお聞きしたいのですけれども。

この計算値と、2ページの方では実際に実測された流量かと思うのですが、相当違いがあるんですね。本来破堤をして被害が出ているというのは限られているのですが、例えば昭和35年8月、42年7月、58年9月。それ以外は流量としてはそれほど違ってはいけないのではないかと思うのですが、それぞれ非常に差が大きいんです。例えば、28年9月であれば1,489が、842というのが実測といいますか観測された流量と。すごく大きな違いなのですが、そのあたりについてちょっとご説明をお願いします。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

今回お示ししておりますの銀橋地点については、実測ではなくて一応計算をした結果でございまして。

それで、この雨量に対しまして、各流量のところはかなりばらつきがあるのではないかというご指摘でございまして、この流量につきましては、洪水の波形というんですかパターンによりまして、急激に雨量等が連続して、かなり時間雨量も大きいということになればピーク流量として高い値も出ますし、のんびんだらりと降っておるようであれば低い流量ともなっておりますし、洪水のパターンで変わってくるということと。それと、狭窄部上流の浸水被害につきましては、狭窄部の現況の氾濫しない能力が約 $880\text{m}^3/\text{s}$ でございます。ですから、この $880\text{m}^3/\text{s}$ 相当を超えると浸水被害等は起きるとい

とでこちらの被害額の方を算定してございます。それでよろしいでしょうか。

畑委員

どうも。どちらも計算でしたね。

ただ、降雨としては同じ降雨を使われるのですよね、もとなる降雨は。違うのでしょうか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

降雨はそれぞれ、28年、34年、35年、おのおの実績で降った降雨を再現してございます。

畑委員

いずれもですか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

はい。

畑委員

ということは、例えば28年9月であれば、同じ降雨をもとに計算されたらこれだけの違いが出るという、そのところがちょっとわかりにくいのですが。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

と の違いを言っておられるのですか。

畑委員

いえ、2ページと4ページの、 の結果ですね、銀橋上流の。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

2ページの「 銀橋地点計算ピーク流量」においては、一庫ダムがない状態で河道は全部改修されたということで、氾濫しなくて、上流に降った雨がすべて河道に集まった場合に銀橋地点でどのぐらいの流量になりますかという値を記入してございます。これと同じ考え方で、4ページにも「銀橋地点計算ピーク流量」というふうに書かせていただいております、この数字は両方同じでございます。

畑委員

両方同じといいますと、4ページでは一庫ダムがない状態ですよね。2ページでは、年代によっては、

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

いや、これも一庫ダムがない状態ですね。

畑委員

どちらもない状態で。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

はい。各、銀橋地点、小戸地点、戸の内地点ということで、一庫ダムなしで、上流に降った雨が氾濫

しなくて河道だけで流れた場合に、このぐらいの量が流れておりますよということを示してございまして、この4ページの「銀橋地点計算ピーク流量」と2ページの「銀橋地点計算ピーク流量」は考え方が同じでございますので、同じ値となっております。

池淵部会長代理

はい、どうぞ。

今本委員

この表を見まして、非常に不親切なんですよ。

一番わかりやすいのは、1つのページに実績の雨と実際の流量を載せるべきです。観測された流量は氾濫していますから、もし氾濫しないとすればこうなりますと、いわゆる基本高水的な考え方です。それに、さらに現在の状態の流域に降ったらどうなるのか。例えば、今既に一庫ダムがあるにもかかわらず一庫ダムなしで計算してもらったってそれは意味がないわけですね。ですから、一庫ダムはある。土地の利用がこういう状態になっている、そういう状況で28年の雨が降ったらどうなのか、36年の雨が降ったらどうなのか、それを一覧表にしてくれたら非常にわかりやすいんです。

例えば、2ページの図なんか、こんなに幅広くとらずに、順位なんかつけてもらわなくたっていいんですよ。1枚で見られるようにしたら、今のことはわかるようになる。

やはり説明責任といいますか、説得力のある表をつくらないことには、ちょっとこの表はまずいですよ。あっちを見たりこっちを見たり。しかも、その数値が、上の方を見ないと今言われたようなことは書いてないわけですよ。

ですから、何のためにこういう計算をするのか、何のために流量で比較したいのか。これまでは氾濫面積なり被害額でやっていましたけども、物事を考える上ではやはり流量の方がわかりやすいということで流量のデータをお願いしたのですが、表示の仕方をもう一工夫欲しかったということです。

池淵部会長代理

今、今本先生がおっしゃった2ページのあれで洪水名が11個ぐらいあって、そのときそのときでの実績流量というのがあって。

今本委員

そうですね、まずそうですね、はい。

池淵部会長代理

それで現在のその流域の場で。

今本委員

その次には、ダムなりそういう一切操作しない場合にどれだけの流量が来るのか。それから現在、既

に一庫ダムがある。ですから、なかった状態との比較をするときでも、一庫ダムありきで、同じような操作をしたときにどうなるかという比較をしてもらったらそれが全部わかる。

それと、この目標洪水として第2位を用いるということですけど、これはやはり論理性を欠きますよね。1位がだめなら2位だと、それで2位もだめだったら3位だということでもいいのかどうか。これは意見書にも確かに私たちもそういうことを書いているんです。悩みながら。だから、その悩みをもうちょっと、河川管理者も悩んでもらわんと、我々も悩まんといけませんけどね。もう少し、ちょっと考える必要はあると思いますね。そう単純に2位だと。

ここではすっきりと、既往最大規模じゃなく、既往最大を持ってきているんですよね。既往最大、あるいは既往2位を。2位規模じゃないのですよね。ほかとの整合性なりそういうもので、やはり議論の残るところだと思います。

池淵部会長代理

そういう口火のもとで、いろいろ議論をしていただければというふうに思いますけれども。

それから、恐らく今までは35年のそれで、それからいろいろな代替案もして効果がどうやとか、そういう話を見せてもらってという選択をいろいろ考えてきたんですけど、今回は流量だけが出ているので、そういった代案がどのように登場しているか、それも含めた選択の議論ができるのかどうか、そのあたりも、ちょっと後者の方は置いておいて、第2位を持ってくる検討としての扱いについてのご議論、お考え、そういったものを続けていただければというふうに思いますけど、いかがですか。

今本委員

先ほど、実績の洪水の流量と、それから一切操作しなかったときの流量、それから一庫ダムありきの流量、それにプラスアルファで懸案の余野川ダムがあったときの流量、これもやってもらわんといかんわけですよ。恐らく結果がもう出ているのだと思うのですけどもね。これは不利なデータであろうと、やはり見せてもらわんといけません。

これは計算しているでしょうね。してないのですか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

余野川ダムありということでの計算はしてございません。

今本委員

そんなことないですよ、余野川ダムはさんざん、これだけつくりたい、つくりたいと言うてきたのに、そんな計算してないなんてことは僕は信じられません。ありませんか。

池淵部会長代理

河川管理者さん。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

河川調査官の児玉です。きょうお示した目標規模について、見直しをしたいということをお示しをかねがね申し上げておいたのですが、そのどの規模にするのかということをお示ししていませんでしたので、それをこういう考え方でまず検討したいということをお示ししています。

それで、これだけだと、これはまだ何も検討してないわけで、こういうことを目標にした場合に一体どうなるのかと。狭窄部上流の対策というのは、メニューとしては今まで出ておることが当然同じように考えられるわけですが、それらをやったときにどういう効果があるのか。当然その中に、先ほどお話がありました余野川ダムによる利水容量の振りかえをした一庫ダムの治水強化、こういったものもメニューになるわけですが、それによってこれがどうなるのかというようなことは、これは今計算していますので、お示しを当然しないといけないことだと思っています。

検討そのものが、ここまで出して非常に中途半端な状況であるのですが、一体どうなっているのか、進んでいるのか進んでないのかわからないという状況で、皆さん方、大変やきもきしているのではないかと思いますので、まずこれは、ここまでは一応検討の中で設定して、今中身の方に入っていると。それは改めてお示しをしていきたいと思っております。

今本委員

情報公開という観点から言えば、やはりあるデータはすべて見せるというのが僕はフェアなやり方だと思います。今、計算していますと言うけど、そんなのほとんどの人が信用してないですよ。

例えば、余野川ダムは中止することに決めましたと言ったのだったら、もうそのデータは要りません。だけど、まだ余野川ダムは検討中ですと言ったら、そういう基本的な計算は当然、私は済んでいるはずだと思うんです。それをもしせずにやっているのだったら、河川管理者の精査・確認というのはどういうことなのかなと。これはやっぱり今世紀中にはできないなと。利水の精査・確認と全く同じ歩みだなというふうには思わないですよ。

やはり河川管理者の方たちも、もっと皆さんが緊張感を持って、そのデータはあるけど言えないとか、そのデータはないのだとか、どっちかにしてもらわないと、まだしていませんというのはちょっと説得力のない説明だと思います。

池淵部会長代理

どうぞ。

本多委員

本多です。ちょっと意地悪な質問になるかもしれないのですが、猪名川の場合は既往最大というのが今4000分の1の確率ということで、非常に大きな問題がありましたので、委員会でも既往最大の見

直しということ言うてきたわけですけども。

それを今回のように、こういうふうに2位にしてはどうかとかいうふうに考えているところは、委員会も言うてきたところではありますけども、川上ダムの問題と重ね合わせて考えますと、猪名川の場合はそんなに簡単に変えたり、また今まで住民説明会や対話討論会の中で言うてきたことを引き下げていくわけですから、これは治水安全度が下がるんじゃないとか、またそういう住民に対する説明とか、これはちょっと川上ダムの反対のあれになりますけれども、猪名川の場合はそんなことが簡単に通って、川上ダムの場合はなかなか通らないというようなことなのか、ちょっとその辺、猪名川の場合はこんなに簡単に議論が進んでいくものなのでしょうか。

我々が言うたんですけども、ちょっとそういうことは何か違うなというふうに思いました。

池淵部会長代理

どうぞ。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

児玉です。猪名川の場合も、当然のことながら、この狭窄部の上流に関して、これまでいろいろな治水対策を講じようとしてきたわけです。これに期待をしていた方々というのは当然おられるわけで、その点については我々も、ここの地区でも同じように大変重要なことだと思っています。

今回の目標洪水の考え方で、第2位というふうなことをお話を今しましたが、その際にもう1つ大事なことを申し上げています。昭和28年9月洪水の1.05倍というこの洪水、これはまさにこの銀橋上流の地区に対して、この洪水に耐えられるようにしますということをかねがねお話をしていたわけです。これがクリアできているのか、できていないのかというのは非常に大事なことだと我々は思っているわけです。

川上ダムの上野地区の話をしたときに、既往最大規模の洪水というときにわかりやすいというのは、やっぱりまさにその実績のものですということは我々も申し上げたと思います。ただそのときに、狭窄部上流にこれまで期待していただいていた対策、これとの比較は考えないといけないと申し上げたわけです。

その意味で、こちらはそれに相当するのは、この28年9月の1.05倍であります。ですからそれも含めて、単に58年だけではなくて、こちらも考えるということがポイントであります。

池淵部会長代理

どうぞ。

今本委員

今の議論は、いわゆる工事实施基本計画、これですと来たわけです。それを変えようということで

すからね。それを持ち出されてこれまで説明してきたということだったら、もうこんな河川整備計画なんて議論する余地はなくなると思うんです。従来の方針を、今まで言うてきたのだから早うやってくれということになっていくんじゃないですか。

私は今回のこの問題の場合に、既往最大を対象にしても、できないのは浸水被害の解消だと思うのです。解消ができない。だから、既往最大洪水に対して、解消を目標にするのだけれども、これはここ30年ではできませんと。しかし、できるだけ軽減につなげますというふうにしていった方がいいのではないかなと。これは私個人の意見ですけれども、このところをほかの委員の方はどういうふうにお考えになるのか聞かせていただければありがたいです。

池淵部会長代理

いかがですか。どうぞ。

細川委員

細川です。今までもずっと、下流域に関しては流域全体に平均して雨の降った28年9月と、狭窄部に関しては既往最大である35年8月というのでインプットされているので、それ以外ということに関して、まずこれでいいのかないかなというのは正直思います。

それと、既往最大、確かに既往最大ではとても対策が難しいということは重々承知していることなんですけれども、それでも実際にそれだけの雨が降っているのに、目標はこれだけですからまあこんなものでということ、今後30年言い続けられないといけなかったかなということには、やはり何か釈然としない思いがあります。

既往最大がある以上は、その既往最大を目標に努力を続けるべきなのではないかと、その方が河川整備としては正直なんじゃないかという思いがします。

池淵部会長代理

はい。

本多委員

すいません、本多です。今回、見直してくださいということは、流域委員会の方からの意見をさせていただいたので、そういう見直しの経過を報告していただいたのだと思いますので、非常にありがたいというふうに思います。

ただ、今回2つ、58年9月の実績と、これは29年の以前の計画だと思いますが、やはりここでは引き伸ばしをされた結果ではないのかなというふうに思いました。これは以前からも議論になってきたところだと思いますので、やはり実績で全部見ていただくのがいいのかなということと、やはりあふれてどうしようもない部分、限界というものもあるとは思いますが、それについては被害を軽減していくため

の流域対応というのをいろいろ考えてやっていくということが大切なんじゃないのかなと私は思います。以上です。

池淵部会長代理

ほかの委員さん、いかがですか。

解消という言葉はなくしたということですが、軽減という形には進んできているわけで、その軽減というその度合いが、今までの説明では非常に大きなものだという内容の説明等もございましたけれども、第2位をしたからという、その軽減には小さくなるんでしょうけども、その考え方等について今までのあれを踏襲すべきだという。その軽減の度合いはあれですけども、やっぱりそういうものに努めると。いろんな代案をセットにするなりしてということ、意見として何人かいただいているというふうに思ったりするんですけども。ほかはいかがですか。

河川管理者さん、これも検討したいという意味ですか。前のやつも。そのどっちかという。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

まさに35年8月を対象に検討してきたわけですけども、それについては見直しをして58年を対象に考えたい。ただそのときに、28年型についても、これは頭に入れた上で検討したいということであります。

池淵部会長代理

どうぞ。

今本委員

しかし、2番目の分をとったからというて、やはり被害は軽減で、解消してないわけですよ。この表で見ますと。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

これはまだ対策の方を、まだやってないからです。

今本委員

ですけど、2番目ぐらいだったら解消できる見通しがあるということで、2番目を持ち出されたんですか。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

それはこれまでに比べると、被害はこの何もしないときでも大分少なくなっていますので、さまざまな対策を組み合わせれば何とかできるのではないかと、その感触を持った上での話であります。

今本委員

治水の目標というのは、やはりふらふら変えるべきじゃないと私は思うのです。ですから、幾ら大洪

水であろうと、やはり既往最大は既往最大で、既往最大にチャレンジしていくのだと。

ただ、そうは言うものの、できるのはここまでだということを書いていった方がむしろ理解できやすいんじゃないでしょうか。そうじゃないと、これを上回る、既往最大よりは下だけどもたまたもう1つあったというたら、またそのときでやり直さならん。同じことの繰り返しですので、僕はやはり既往最大で、もしそれを上回るようなものがあつたら、やはり既往最大は既往最大、常に目標は既往最大で、床上浸水をやる。

これは当然、河川だけでできない可能性がもちろん高いです。この場所は、そのことをはっきり書いていった方がいいのかなあ。

これはこれからの、非常に重要な議論の点だと思います。

池淵部会長代理

35年の既往最大規模については、いろんな代案を入れて計算されて、被害の軽減という行為には結びつくのは明らかだと。それを限界と見るのか、その軽減に努めたということで、それを超えるやつについてはほかの対策という、そういう組み合わせで、受忍とかいうのじゃない、限界というものを突き詰めたのがどこまでなのかというあたりを了解いただくような内容物になるのか、そのあたりも含めてということだろうと思うんですけども。

35年8月でやはり押し通してというものと、第2位でいろんな代案を組み合わせ、軽減から解消に近い、今でいける見通しのもとということを含めておっしゃられたので、そのあたりは大きな展開、議論だろうというふうに思ったりするんですけど。

ほかの委員の皆さん方、いかがですかね。はい、どうぞ。

細川委員

細川です。まずとにかく、第2位ということに関しても、選び方によって大分違いますよね。例えば実績総雨量の既往最大の第2位は28年9月ですし、またあるいは計算ピーク流量が、今回の場合は一庫ダムでの計算ピーク流量を載せてないですけども、58年9月の場合は計算ピーク流量は、一庫ダムでは28年9月の方が680、58年9月は570ということで、ここ銀橋のところピーク流量が逆転していますね。ですから、2位といっても、どの2位をとるかによって当然違ってくる。やはりその辺を、2位といってもいろいろな2位があるというような方法というのは余りよくないのではないかなと思うんですけど。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

2位というのが、一応考え方といたしましては、流量でその水で被害が生じてございますので、その流量という観点で2位ということ考えていきたいと思っております。

雨ですと、また降雨のいろいろな降り方のパターンによりまして、流量がさまざまな態様がございしますので、多ければその分氾濫いたしますので、その流量を見て2位というもので考えていきたいと考えています。

今本委員

それは一庫ダムなしでやっているでしょう。一庫ダムありでやったときでもやはり2位ですか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所長 小畑）

2ページのところで、この銀橋地点の現況ピーク流量でございますが、ここについてはこの備考欄といいますが、一番下のところにも書いてございますが、「一庫ダムの操作は現行操作（ $150\text{m}^3/\text{s}$ 一定放流）」、これで行った結果でございます。それで流量的には58年9月が $1,015\text{m}^3/\text{s}$ ということで2位ということでございます。

今本委員

わかりました、はい。

池淵部会長代理

ほかの委員さん、いかがですかね。

田中委員、いかがですか。

田中哲夫委員

もう既に、既往最大規模やなくて既往最大というのを目標にするというのが、かなり委員の中の一致した意見になっていますので申し上げませんが、既往最大というのを持ってくるのにそれほど根拠がないのと同じように、2位というのを持ってくるのはもっと根拠がないんですけれども。私は最初から確率降雨でいくべきではないかと。

例えば、この銀橋上流の4000分の1というのを目標にするのはやっぱりおかしいということを申し上げたんですけど、これはちょっともう置いておいて、議論は前にもう蒸し返すのはやめまして、既往最大でいくということになったときに、既往最大というのもある程度の対策ができて、浸水被害がかなり分まで縮小できるという目標の2位というのも、これも根拠はないのですよね。実は根拠なし。ですけども、流域住民にとって最もわかりやすいのが、理屈抜きに最もわかりやすいのが既往最大だというのを、流域委員会として苦心の末というか、あがいた末に出てきた説明のための言葉だと思っているのです。

だとすると、確かに既往最大というのは、私に言わせれば実は根拠薄弱だと思うんですけど、2位を持ってくるのはもっともっと薄弱であるということで、今本先生がおっしゃいましたように、既往最大規模じゃなくて最大というのを持ってくる、洪水対策の規模として持ってくる。その軽減というこ

とで、その軽減と言うた途端にこの軽減の程度はどれだけやという、またあやふやなところをそっちに移譲してしまう可能性はあるんですけども、今の説明、現在のところの説明の仕方として既往最大を持ってくる、それを軽減するのだというを持ってくるのが一番説得しやすいというか、流域の人にとってわかりやすいという気はいたします。

2位を持ってくるのはやっぱり非常に、そしたらその次に3位を持ってきたり、いろいろ出てきますけれども、根拠はやっぱりないんですね。それで突き詰めていったら、既往最大がほんまに根拠があるかといったら、実は同じレベルでないのですけれども、一応説明がしやすいと。今までにこの流域ではこういう水害が起こる降雨レベルというか流量が起こりましたということで、説明しやすいということだと。そこで統一した方がクリアではないかという気がいたします。

池淵部会長代理

ほかの委員さんから、はい。

畑委員

この結果を拝見しますと、やはり一庫ダムの効果というのは非常に大きいわけですから、一般住民の方から考えましても、この規模の豪雨があった場合には、やっぱりこれだけの危険性があるということは十分に認識していただいて、河川管理者としてはこういう事実というのを明確に示すということは非常に重要なことかと思うんです。

これまで銀橋上流というのは非常に頻度が高く氾濫が繰り返されているわけですが、今日のこのダム操作を行えば、これですと相当長期にわたって見ても2回の被害で済むということになりますし、そういう意味でダム操作の可能性も、この $150\text{m}^3/\text{s}$ というのはあくまでも現在での話でありますから、この操作に関してはまだふやすことも可能になると。そういうことになると、またさらにこの被害発生を少なくすることも可能であるということで、現在の状況というのを明確に示すということは非常に大事じゃないかと思えます。

池淵部会長代理

今までのご議論、意見等を踏まえますと、非常に大きな議論ではあるわけですけども、集約的に申しますと、既往最大というものを描いているんな代案で銀橋狭窄部の浸水被害の軽減という、その目標を立ててするのが治水の、特に狭窄部という上流の内容で、下流についての議論はまだございませんけれども、そういう方向での意見分布ではないかなと思ったりするのですけれども、いかがでしょうか。

河川管理者さん、もう少し主張なり、あるいはそういうやりとりが必要だとも思いますので、そのあたり再度お願いできませんか。この部会としてはそういう意見に、議論としてはきょうの時点ではその方向を模索すべきだというように言われていると感じておるんですけど。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

児玉です。きょう、これは目標をこういうことで考えるということで、その検討の結果というのをまだ何も示しておらないわけです。これは議論の中でもありまして、これでどうなるのかということも踏まえてのまた議論が当然出てくると思います。

我々としては、そんなのは当然もう計算終わっているだろうという話ですが、まだやっておる途中でございますので、これはでき次第、この考え方に沿って考えるということで、またそれに対してもご意見が当然あるかと思えます。それはぜひまたいただきたいというふうに思えます。

池淵部会長代理

今のその検討は、我々としてはいつまでもというわけには、もう今本さんはできておると違うかと、我々も思うと同時に、少なくとも11月10日のダムワーキング、そこでは余野川ダムにかかわるとい形で、その狭窄部の強化策等も含めて、その代案のこの目標にしたときのやり方といったものが出てくるというぐらいのタイムスパンとして考えさせてもらってもいいですか。

きょうはまだ、そういう方向を我々としては模索、展開すべきだというふうに。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

現在、鋭意やっておりますので、10日のダムワーキングのときに間に合わせられるように頑張ります。

池淵部会長代理

それも見てという方向にすべきか、もうここで一発こっち側だけでやれと、そういう形とで、ちょっとかなり意見なりも違うと思うんですけど、そのあたりはいかがですか。それはある程度見るという姿勢に行っているのかどうか、そのあたりなんですけど。

今本委員

ダムワーキングとしては、常に現在あるデータで判断していきます。ですから、河川管理者から新たに説明があれば、当然その段階で今までの自分たちがやってきたことを考え直します。これはもう最後の瞬間までそういうことを貫いていきたいと思っています。

ただ、できるだけ検討する時間をいただきたいものですから、できるだけ早く欲しい。これが12月の委員会、後であっても、もし大幅な説明の追加があれば当然、私はそれに時間切れなんて言わずに耳を傾けたいと思っていますので、ひたすら私どもは待つ身ですけども。

決して河川管理者がさぼっているなんて思っていません。皆さんは皆さんで必死になってやってくれて、できるだけ間に合わそうと最善の努力をされていると信じて待ちます。

池淵部会長代理

35年については、一応その代案検討も含めてそれは説明等もいただいているということで、きょうご

提示になった第2位のそれを追加で検討をすればどんなものが出てくるのか、それも見るという姿勢なのか、そういう形で進めさせていただくという。

今本委員

それは、目標とする洪水はいかなる大洪水もすべてです。そのときの単なる1つの目安として既往最大というものがある。そのことで、じゃ何を見るのか。

当面の、例えば河道の流下能力を、少なくとも既往最大まではいきたいということで整備する。もしそれができたら、さらに大きな流量を対象に。いかなる大洪水ですからね。それができないところは残念ながら、例えばこの多田地区ではこれまでの3位の分には対応はできますけど、2位はまだちょっと無理ですと、努力はしますということで、2位がクリアできたら今度は当然、既往最大を。既往最大を覆すような大洪水があったら、またそれも対象にしてやっていく。

そういう意味で、私は対象とする洪水がそんなに大事だとは思っていません。最終的にダムをとるのか、とらないのかというときの目安にはなってくるのですよ。ただ、やり方としてはそんなに、その場合ですら決定的な要素はないと思いますね。

池淵部会長代理

ということは、第2位のこれも検討にしてもらって見るという、そういうことで。

今本委員

そうです、当然してもらいたいと思います。

例えば、多分、第3位ぐらいでしたら今の計画でクリアできるのですよ。それは私は公表しておいた方がいいと思うのです。今ここまではできるけども、第2位はちょっとまだ解消とまではいかない。既往最大になると、とてもじゃないけどできない。これはやむを得ないと思うのですよ。できないことはできないのです。ただ努力はしてもらいたいということです。

池淵部会長代理

そういうことで、その検討はやるに値するけど、それも早くということと、それから、それによって余野川ダム係というものが1つ、前の35年と58年ですか、その比較も当然出てくるということで、それもダム係としては評価を見とらえ方に持っていきたいというような扱いでいいですか。

今本委員

当然、ダムの問題は治水だけで決まるものじゃないのですけども、治水面からいってほかにどうしようもないと。だけど余野川ダムができたら劇的によくなるというのでしたら、当然、治水面からいえばプラス思考で検討せざるを得ないと思います。

池淵部会長代理

そういうことで、まとめる段になって恐縮でございますけれども、きょう、目標洪水の再検討という中に、第2位のこれも対象にして検討の材料として上げていただいて、早急に見せていただいて、その中でその軽減というものに向かっている、そういう内容になっているか、そのときにダム係というものがセットでどのように議論できるか、そういうものを早急につくっていただき、見せて説明いただきたいということで、きょうのこの部分についてはそのような形でお願いしたいというふうに思っております。

はい。

畚野委員

畚野です。ちょっとその第2位について、いろいろ検討、計算を追加されるということは結構だと思うんですけども、その際に、これは全く川西市とか、あるいは地元感情とか、あるいは県の計画とかを見ますと、今までの計画で昭和58年設定と思いますけれども、狭窄部の開削ということは必ず希望とが設定として出てきておるのです。

そういうことを踏まえた場合に、狭窄部の全面開削とは申しませんが、この前から少しは一部開削というような試算もされていると思いますが、そういう一部開削の試算についても、既往最大だけではなくて、今回の2位についても一部開削という場合のデータも示していただけたらかなり地元の方にもわかりやすいんじゃないかということです。これは次に間に合わなくてもその次でも、とにかく必ず出していただいた方が住民にとってわかりやすいんじゃないかということを追加しておきます。

池淵部会長代理

当面開削しないという形で、ここでも議論しておりますけれども、先ほど申しましたようなものに、さらにいつの時期かわからんけどその開削という規模もセットで少し走らす、そういう行為も、下流の進捗状況という形になっておりますけれども、お示ししていただきたいという要望でもありますね。

それは河川管理者さん、大丈夫ですか。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

開削については、原則として行わないということを申し上げておりますけれども、その開削しないという理由がありまして、下流に対して流量をふやすことになり、水位を高めるということがあるからです。

逆にいうと、こういった水位を高めるというようなことに対して何らかの対策が可能であれば、開削ということも考え得るわけでありまして。そういったことも含めて、まずは狭窄部の上流での対策というのを一生懸命考えるということではありますが、それに加えて開削をした場合の検討というのも行うとい

うことで、これはこれまでもその旨申し上げていたと思いますけども、対象洪水を変えた場合にも、基本的には同じ考え方で検討を進めていきたいと思っています。

池淵部会長代理

本多さんの場合はうまく時間厳守がいったのに、私はまたオーバーしてしまって。7時になってしまったので、今のような方向で早急にそういうことも含めて出し、説明もいただくということをお願い、確約的に申し述べさせていただきます。

〔一般傍聴者からの意見聴取〕

池淵部会長代理

一般傍聴の方から、ちょっと時間オーバーで大変恐縮でございますが、ご発言等いただければありがたいなあと思いますが。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

傍聴者（千代延）

吹田の千代延です。きょうは猪名川部会ですので、ちょっとこの問題について申し上げるのはどうかと思いましたが、あえて申し上げさせていただきます。

利水の問題です。今まで河川管理者の方から、利水者の方から出てきていないから作業が進まないという説明がありました。しかし、よくよく示されたデータを見てまいりますと、大きく見れば玉は河川管理者の方にあると思うんです。その理由を申し上げます。特にダムとの関係です。

まず一番大きい大阪府営水道、これは自分たちの態度を決めて、工業用水の転用で乗り切ると、これはもう総需要がどうであるかということ抜きにして、その方針を決めて、具体的に協議を申し入れておるということを河川管理者の方も説明していらっしゃいます。ですからこれに対して、トータルの問題だから一つ一つには答えられないというのではなくて、もしご心配なら条件つきで回答を早急に出していただきたいと。認める、認めないということですね。もしそれができないのなら、全体がそろわないからだめだというのではなくて、具体的にどういう理由で転用が認められないのか、これを明らかにしていただきたいと思います。

それから2番目の利水者の動き、阪神水道ですね。これも丹生ダム、余野川ダムから取水を当初は計画していたのでありますが、これについても自分たちの方針を明確にして、尼崎市の工業用水を転用すると。これは相手があることですから双方で話を進め、その上で河川管理者の方に申し入れをしておるわけですね。

それから、規模としてはそれほど大きくありませんけども、自分たちの方針を明らかにしておるのは、その次に奈良県営水道です。これは例の有名な大滝ダム、まだ運用というところにはほど遠いですが、大きな取水権を取得して水が余る、十分余るという判断をされ、ことしの2月に県議会に川上ダム

は撤退したいという方針を了承されまして、その上で河川管理者に撤退の方向で申し入れをされております。

8つのうち、3つがこのように自分たちの態度を明確にしております。

その次は、いろいろありますけども、京都府営さんは今、暫定水利権というところで余り強いことが言えないという状態ですけども、天ヶ瀬の再開発ができれば、この大半の問題解決なんです。ましてや今、実績と計画の差が物すごい大きいわけです。それでも丹生ダムと大戸川ダムに京都府営は申し込んでおりますが、大口の大阪府営とか阪神水道が除いた後、自力で何とかつくってほしいというような判断はもうできないから、恐らく前の2つが撤退ということになれば、京都府営も当然、あれほど実績との差が大きいんですから、まあわかりませんが撤退の可能性は極めて強いと思います。

次に西宮市、これは川上ダムにエントリーされておりますけども、これはとどのつまりは淀川水系から日量1万8,000m³ 水がもらえればよろしいと。それで川上ダムも淀川水系ですから、それでもいいんですけども、ほかのところが流動的ですから、どっちが安くつくかわからないと。やっぱりどこでも、どっちが安いかというのを考えますので。ほかのところが決まってくると、どっちが安いかというのは決まってくると思うのです。ですから、話が進んでくると思うのです。

それであとの残り、箕面市はもう既に大阪府営から水を受水する、この方針も決まっております。残りは大津市、これは日量1,000m³ 程度ですから、もうほとんど大した問題にはならないと思います。残る最後の三重県営水道というのが需要見直しをしまして、日量2万8,750m³ に変えられておりますけど、この問題だけが実質残るわけです。

ということで、きょうは機会があるので申し上げさせていただきますけども、こういうふうに、利水者から出てこないから問題が前へ進まないというのは私は明らかに間違っていると思うのです。ですから、委員会とされまして、早急に今のを、まあ私の言うのが全部正しいかどうかは別ですが、私の方に対してご理解いただけるのでありましたら、河川管理者に早急に利水者に返事をし、次々と問題を解決してやっていただきたいということを督促していただきたいということをお願いしておきます。

たくさん利水者はおります。水道用水であれば48件、工業用水なら28件、農業用水ならもっとたくさんと言いますが、そんなのが全部できなければ作業できないということは全く、これはもう違ったことなのです。

ということで、重ねてお願いしておきますが、よろしく願います。以上です。ありがとうございました。

池淵部会長代理

はい、どうもありがとうございました。

流域委員会、ダムワーキングも含めてですが、出てこないとなれば新規の利水はないと判断せざるを得ないという形での議論取り扱いに展開しようとしておりますので、さっきご提示いただいたそれぞれの利用の熟度を、条件つきでどのように今我々として入れ込めるかどうか、そういうことのない形で、早くということは重ね重ね申しておるわけでございますので、改めてと思う次第でございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔その他〕

池淵部会長代理

それでは、その他ということで、河川管理者さん、用意いただいているけどせなあかんかいな。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

もう時間が過ぎておりますので、また次回に説明させていただきます。

池淵部会長代理

いいですか。この間の23号の続報ということで、データ等が出てきておりますけれども、少し資料はいただいておりますので、いいですか。

河川管理者（近畿地方整備局 猪名川河川事務所長 林）

はい、結構でございます。

池淵部会長代理

何かちょっと言うておきたいということがあれば、あれですけども。いいですか。

河川管理者（近畿地方整備局 河川部 河川調査官 児玉）

台風23号については、委員会でもご報告しましたが、若干、11月1日ということで新しくなった情報をお手元の方に配付させていただいております。これはもう特にご説明いたしませんのでごらんください。

池淵部会長代理

申しわけございません。

それからあと、今後のスケジュールということで、事務局少しお願いします。

庶務（みずほ総合研究所 吉岡）

庶務から簡単に申し上げます。

資料3としまして、今後のスケジュールをつけさせていただいておりますけれども、猪名川部会としまして、1ページ目の一番下の方でございますけども、今回は12月3日14時から17時を予定させていただいております。場所は天満研修センターとなっておりますが、この会場と同じ9階のホールになりますのでよろしく願いいたします。

あとは直近の会議だけ紹介申し上げますと、来週の11月8日、月曜日なのですが、3ダムワーキングと琵琶湖部会合同で午前、午後と通して開催させていただきます。

それと、先ほども話が出ましたが11月10日ですけれども、16時から18時ということでダムワーキングを開催させていただきます。

以上、スケジュールについてご説明させていただきました。

池淵部会長代理

どうもありがとうございました。

以上、本日これで閉じさせていただきたいと思いますが、先ほど最初にちょっと申させていただきましたけれども、きょうの議題の1の取りまとめ等について、第10回の検討会をこの後引き続きやりたいと思いますので、委員の皆さん方でご協力賜ればというふうに思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

庶務（みずほ総合研究所 鈴木）

それでは、これで第23回猪名川部会を閉会をさせていただきます。

ありがとうございました。

〔午後 7時10分 閉会〕